

崇徳二年正月分満文檔案譯註

河 内 良 弘

解 題

本稿は中国第一歴史檔案館所蔵国史檔の崇徳二年正月分満文檔案の譯註である。所謂『満文老檔』は清朝の太祖ヌルハチ、太宗ホンタイジの時代の第一等史料であるが、それは乾隆年間に、それまで伝わっていた古い満文記録、所謂原檔を整理重鈔し、180巻の書に編纂したものである。その『満文老檔』には北京本と奉天本とがあり、北京本には「草写体無圈点本」と「同有圈点本」、「楷写体無圈点本」と「同有圈点本」の4種があり、いずれも黄緞子装訂本である。奉天本には草写体本はなく「楷写体無圈点本」「同有圈点本」の2種がある。

如上の『満文老檔』の重鈔年次については今西春秋氏の研究があり、北京本は乾隆40年2月に重鈔開始、乾隆43年秋告成。奉天本は乾隆43年10月重鈔開始、乾隆44年末か或は45年初頭、北京において完成し、乾隆45年2月、北京から奉天に送られた。その『満文老檔』は1905年、内藤湖南教授が盛京宮殿の崇謨閣で発見し、その後、羽田亨教授と共に写真撮影され、京都大学に齎されたこと、またそれらが神田信夫教授等によって翻訳され、1955年以降1963年までに『満文老檔』として出版されたことは周知の如くである。

さて『満文老檔』のもとになった所謂『満文原檔』は、内閣大庫中から、1931年にまず37冊が発見され、1935年に別の3冊が発見された。これらの原檔は現在台北の故宮博物院に所蔵され、1969年『旧満洲檔』として影印出版されたが、末尾は崇徳元年十二月で終わっている。

いまここに筆者が訳出した『崇徳二年正月分満文檔案』は、如上の『満文

老檔』および『旧満洲檔』ではなく、且記録の時代から言えば、これらに引きつづくもので、歴史資料としても言語資料としても大変貴重なものである。恐らく他の満文檔案と共に発見されたものであろう。発見の経緯は今のところ不明であるが、やがて中国第一歴史檔案館から発表されると期待している。この貴重な文書のローマ字転写と日本語への翻訳を許可された中国第一歴史檔案館の関係各位先生に、謹んで衷心より感謝致したい。

Ⅱ 翻 訳 凡 例

1. 本満文檔案の原本には頁数は記されていない。訳者は便宜上、原本表紙を0頁とし、以下本文第1頁以下に順次頁数を付し、訳文中に記した。たとえば7/8は、7頁が終り8頁の記事がはじまったことを示す。
2. 原本中、抹消したり圈で囲ってある文字で判読できるものは〔 〕に入れて示した。
3. 原本中には、たとえば ahūra (道具), ayo (ではあるまいか), yoni (全ての) のように、『御製清文鑑』等に見える正統的満洲語とは異なった綴字で書かれた語が現われる。それらの語は注記するのを止め、正統的満洲語を()に入れ、各語の後に示した。
4. 正統的満洲語では、nan, han, enduringge のような語の n には点を付けないが、原本では通常と異なり n に点を付して表記していることがある。この訳文では nañ, hañ, eñduringge のように n の上に点を付してこれを区別した。
5. 0頁の末尾に fugin de……turgun be ungihe〜の文字が記される。これは表紙に何かの書きちらしの紙を利用したためで、本来ここに挿入される語句ではない。
6. 表紙には「正月・二月の檔子」と記されるが、この檔冊の記録は正月二十四日の途中までで終っている。

参 考 書

- 「整理内閣大庫滿文老檔之緣起与計画」『文献特刊』1935.
- 内藤虎次郎「清朝開国期の史料」『内藤湖南全集』7, 1970, 2, 321 - 344.
- 羽田 亨「史料蒐集家としての内藤博士」『羽田博士史学論文集』下, 1958, 583 - 588.
- 今西春秋「滿洲語の話」『留日同学会季刊』6号, 1944, 11 - 70, 7・8号, 10 - 16.
- 「滿文老檔の重鈔年次」『東方学紀要』1, 1959, 89 - 93.
- 「崇德三年分滿文原檔について」『東方学紀要』1, 1959, 94 - 100.
- 神田信夫「清朝の実録について」『歴史教育』12号9巻, 1964, 35 - 41.
- （書評）「清太祖朝「老滿文原檔」與「滿文老檔」之比較研究」『東洋学報』49巻1号, 1966, 102 - 107.
- 松村 潤「順治初纂清太宗実録について」『創立七十周年記念論文集』（日本大学文理学部人文科学研究所）1973, 3, 65 - 78.
- 『『滿文老檔』・『舊滿洲檔』對照表』『遊牧社会史探究』別冊, 1978.
- 神田信夫・松村潤・岡田英弘訳註『舊滿洲檔一天聰九年1』東洋文庫, 1972., 同2, 1975.
- 『滿文老檔』I - VII, 東洋文庫, 1955 - 1963.
- 陳捷先「『舊滿洲檔』述略」『舊滿洲檔』（一）, 故宮博物院, 台北, 1969, 1 - 56.
- 『舊滿洲檔譯註 清太宗朝（一）』故宮博物院, 台北, 1977.
- 中国第一歴史檔案館「滿文国史檔選訳」『歴史檔案』1982: 4, 15 - 24.
- 関孝廉「『滿文老檔』的修復与重抄」『歴史檔案』1987: 3, 125 - 129.
- 季永海, 劉景憲『崇德三年滿文檔案譯編』遼瀋書社, 1988年11月。未見。

訳 注

/0 uju

fulahūn ihan aniya, aniya biya juwe biyai dangse,,
丁 丑 年 正 月, 二 月の 檔子。

dasame wajiha, sarkiyame ara,,
改め 完った。清書して 書け。

(fugin de …… turgun be unggihe babe dasame gisurembi)
夫人 に 理由 を 送った ことをあらためて述べる。

0/1 aniya biyai ice de, enduringge han, coohiyan gurun i
正 月 朔 日, 聖 汗は, 朝 鮮 国

wang lidzung ni bisire nañ hañ gebungge alin i hoton be
王 李 倭 の いる 南 漢 という 山 城 を

tuwame,, muduri erin de ing ci tucifi šurdeme tuwafi,,
視察のため, 辰の 刻 に 營 を 出て まわりを 視察し,

bonio erin de, ing de isinjiha,,
申の 刻 に, 營 に 帰った。

○ ice juwe de,, jirla doo i goloi sin sumingguwan,, li
初 二 日, 全羅 道 の 沈 總 兵 官, 李

sumingguwan cooha gaifi, ini coohiyan gurun i wang be,,
總 兵 官 が 兵を率い, 彼の 朝鮮 国 王 が,

daicing gurun i cooha de nañ hañ gebungge hoton de
大清 国 の 兵 に 南 漢 という 城 に

kabuhabi seme dame jihe be, coohai jurgan i doroi yoto
囲まれた と (聞き) 援けに來たのを, 兵 部 の 多羅 岳託

beile cooha gaifi okdome afafi gidaha,, 1/2 tere inenggi,,
貝勒が 兵を 率い 迎え 戦い 撃ち破った。 その 日,

daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun enduringge han i
大清 国 の 仁 寛 温 聖 汗 の

hesei bithe,, coohiyan gurun i wang de wasimbuha,, mini
勅 書を 朝鮮 国 王 に 下した。 『わが

deri jecen i warka be bargiyame ganaha cooha be,, suweni
東 界 の 瓦爾喀 を 収め取りに 行った 兵 を 爾等

coohiyan i cooha emu jergi heturefi afaha,, jai geli nikan
朝鮮 の 兵が 一 度 道を遮り 攻めた。次に又 漢

de dafi suweni cooha, mimbe dailame jihe,, tuttu bicibe,,
に 味方し爾等の 兵が, 吾を 討ちに 来た。しかしながら,

bi hanciki gurun i sain banjire doro
わたくしは鄰 国 と 友好に 生きる 道

be gūnime ekisaka bihe,, bi lioodung ni babe baha
を 思い 黙して いた。 わたくしは遼東 の 処を 得た

manggi,, suwe lioodung ni bai irgen be boolime (bolime)
後, 爾等は 遼東 の 処の 民 を 誘い

elbime nikan de obure jakade,, bi jili banjifi
招き 漢 と なした ので, わたくしは怒りを 発し

cooha unggifi, fulahūn gūlmahūn aniya dailaha turgun tere
兵を 送った。 丁 卯 年に 出兵した 理由は それ

kai,, 2/3 bi etuhun seme coktolome simbe
である。 わたくしは強いから といって 驕り, 爾が

yadalinggū budun seme gidašame turgun akū dailahangge
虚弱 庸懦だといって 欺凌し 理由も なしに 討ったことが

geli bio,, si fulahūn gūlmahūn aniya mini baru
又 あろうか。爾は 丁 卯 年, 我に 向い

jortai tookabume acaha,, te umesi lashalame ehe
わざと ぐずぐず引き延ばして和順した。 今 はなはだ きっぱりと 悪を

oho,, jase i ambasa be bodogonggo [bodohonggo] mergese
なした。辺 臣等 に 謀略ある 智者等

be isabu,, baturu manggasa be huwekiyebu serengge
を 集めよ、勇敢の 士等 を 奮起させよ と言ったのは

ai turgun,, te mini beye amba cooha ilifi
どのような理由なのか。 今わたくしみずから 大 軍を 挙げ

sini ba na de sektefi jihebi,, te sini beye gaifi bodogonggo
爾の 疆 域 に 陳べ 来たった。今 爾 みずから 要めて 智謀ある

mergese be bodobume,, baturu manggasai hūsun be tucibume ainu
者 を 画策させ、勇 敢の士等の 力 を 出させて 何故

afarakū,, bi etuhun seme etenggileme sini ba na
戦わないのか。わたくしは 強大だからと言って強さを待み 爾の 疆 域

be necihengge geli bio,, si yadalinggū budun
を 侵害することが 又あろうか。 爾は虚弱 庸懦であり

bime elemangga mini ba na be nungneme orhoda 3/4
ながら、 反って わが 疆 界 を 侵害し 人蔘（を採らせ）

butha butaburengge ai turgun,, mini ukanju be si alime
捕獵 させているのは 何の 理由か。 わが 逃亡 を 爾は受け

gaifi nikan de benere nikan ci minde ubašame jidere,
取り 漢 に 送り、 漢 より われに 叛いて 来た

kung, geng juwe jiyangjiyūn (jiyanggiyūn) ,, mini okadome
孔、 耿 兩 將 軍を、 わたくしが迎えに

unggihe coohai baru, sini cooha mioociyang sindame
遣った 兵に向かって、 爾の 兵が 銃を 放って

afahahangge ai turgun,, ere afara dailara be gele si
撃戦したのは 何の 理由か。 この 攻 伐 は 皆 爾が

neneme deribuhe,, jai mini deote juse geren wang, tulergi
先に 始めたのだ。 且又 わたくしの弟等 子等 諸 王、 諸外

de dahafi aniya dari alban beneme hengkileme banjiha
に 帰附し、毎 年 貢物を 送り 叩頭し 生存を図った

gurun wakao,, suweni 5 / 6
国では なかったか。 爾等の

solgo gurun julgeci ebsi jalan halame gūwa gurun de
朝鮮 国は 古より 以来 世世 代代 他 国 に

alban beneme hengkilerakū suweni cisui banjihangge
貢物を 送って 叩頭せず 爾が 自 存したことが

geli bio,, bi simbe deo arafi sain banjici si
またあったか。 わたくしは爾を 弟と なし 善い関係で暮せば、 爾は

elemangga minci fudarama ehe be deribufi amban dain
反って わたくしに 叛き 悪事 を 始め 大 軍を

arafi sini gurun irgen be jobolon de lifabufi sini tehe
興し 爾の 国 民 を 苦しみ に 陥れ、 爾の 住む

hecen, boo yamun be waliyafi juse sargan ci fakcame
城郭、 家、 役所 を 棄て、 子等や 妻 と 別れ、

jugūn jugūn i burlafi, ere alin i hecen de dosifi bihe
道を 分けて 奔逃し、 この 山 城 に 入って いた

seme si minggan se bahambio,, si fulahūn gūlmahūn
とて、 爾は千 歳 を得ようか。 爾は 丁 卯

aniyai giricun (girucun) be oboki seme babi (baibi) taifin
年の 聡 を そそぎたいと いたずらに 安樂な

banjire be efuleme,, sain gurun de ehe be deribuhe kai,,
暮し を こわし、 盟好の 国 に 悪 を 始めたのだぞ。

te ere aniya, sini tehe hecen boo yamun be 6 / 7
いま 今 年、 爾の 住む 城郭、 家、 役所 を

waliyafi alin i hecen de burlame (burulame) dosifi ukaka,
棄て 山 城 に 遁 入して 逃げた。

sini ehe de gurun efujehe, irgen joboho, tumen jalan de
爾の 悪により 国は 破れ, 民は 苦しんだ。 萬 世 の
fusihūlabure basucun be si adarame obombi,, si
嘲 笑 を 爾は どのようにしてそそぐのか。 爾は
fulahūn gūlmahūn aniyai giricun (girucun) be obome
丁 卯 年の 恥 を雪ぐために
ainu tucifi afarakū,, hehei adali ukafi bi,, si
何故 出て 戦わず, 婦女の ように 遁げているのか。 爾が
udu ere hecen de ukafi guweki sehe seme,, bi
たとえ この 城 に 遁げて 難をまぬかれようとしたとて, わたくしは
simbe sindafi genembio,, mini deote juse, geren wang,
爾を 放免して 行こうか。 わが 弟, 子等, 諸 王,
dorgi bithe coohai hafasa, tulergi dahaha geren goloi
在内 文 武 官人等, 在外の 帰附した 諸 地方の
wang, beise se, mimbe tukiyme hūwangdi doro be
王, 貝子 等は, わたくしを 崇めて 皇帝の 位 を
toktobure de,, sini wang, ambasa jempi gisurerengge
定めようとするのに, 爾 王, 臣等は 心ならずも 言うことでは
waka serengge adarame,, yaya hūwangdi doro be toktobure
ない と言うのは どうしてか。 およそ 皇 位 を 定めると
nakaburengge,, sini ciha biheo,, sini ere gisun ambula 7/8
否とは 爾の 意のままなのか。 爾の この 言は はなはだ
dabali kai,, yaya niyalma be, abka wehiyeme wesimbuci
僭越 である。 およそ 人 を 天が 佑け 昇せれば
hūwangdi ombi,, wakalafi wasimbuci irgen ombikai,,
皇帝と なるを得る。 とがめ 降せば 庶民と なるぞ。
si hecen hoton be dasara,, mini elcin be an i
爾が 城 郭 を 整備し, わが 使者 に 常例の

doroloro be gūwaliyakangge ai turgun,, mini
儀禮を行なうのを変えたのは 何の 故か。 わたくしの

elcin genehe ambasa be,, sini go loo De²⁾ aca
使者として行った 臣等 を, 爾の 閣 臣 に 会え

seme jalidafi jafaki sere,, jai si nikan be ama
といって 欺き 捕えようと した。又 爾は 明 を 父と

arafi aisilame,, mimbe jing kicerengge ai turgun,,
なし, 助け, われを 常に 害そうと謀ったのは 何 故か。

amba weile eredere,, tereci gūwa buya weile be yabe
大 罪とは これであろう。その 他の 小 罪 は 何をか

hendure,, enteke amba weilei turgun de,, bi amba
言わんや。このような 大 罪の 故 に, わたくしは大

cooha gaifi, sini jakūn golo be wacihiyame cooha jihe,,
軍を 率い, 爾の 八 道 を 滅すため 戦いに 来た。

sini ama seme akdaha nikan i dalire be bi
爾が 父 と 頼んだ 漢 の 助け を わたくしは

tuwara,, jui de jobolon isici ama dalirakū 8/9
見たいものだ。子 に 禍が 及べば 父が 助けない

doro bio³⁾,, tuttu akū oci,, sini gurun, sini irgen be,
道理があろうか。 そうで なければ, 爾の 国, 爾の 民 を,

si efuleme joboburengge kai,, tanggū halai tumen irgen
爾が 亡ぼし 苦しめるものであるぞ。百 姓 萬 民にして

simbe seyeme gūnirakūngge bi semeo,, sinde
爾を 怨みに 思わないものが ある と思うか。 爾に

uru ba bici karu jabu,, ere bithe be,, inggūldai,
筋の通った理由が あれば 返 答せよ。』 この 書 を, 英俄爾岱,

mafuta,, nañ hañ be kaha jase de genefi hūng go loo,
馬福塔が 南 漢 を 囲んだ 辺壘 に 行き 洪 閣 臣,

li selang de buhe,,
李 侍郎 に 与えた。

○ ice ilan de,, coohiyan gurun i wang gingguleme,, daicing
初 三 日, 朝鮮 国 の 王が 謹んで, 大清

gurun i gosin onco hūwaliyasun enduringge hūwangdi de
国 の 仁 寛 温 聖 皇帝 に

bithe wesimbuhe,, ajige gurun,, amba gurun de weile bahafi,
書を 奉じた。『小 国は, 大 国 に 罪を 得,

bi coohai jobolon be dekdebufi emhun becen de 9/10
わたくしは 兵 禍 を 起こし, 孤 城 に

horibufi yamji cimari hafirabuhabi,, cohome elcin takūrafi
囲まれ, 夕 朝 追いつめられている。ひたすら 使を 遣り

mujilen be tucibume bithe jafaki seci cooha de kabufi
心情 を 吐露する為, 書を 呈しようとしたが, 兵 に 囲まれ

hafundara jugūn akū bihe,, cananggi hūwangdi beye
通過の 路が なか った。先ごろ 皇帝 みずから

buya ujan i bade jihe seme donjire jakade, akdarangge
鄙 僻 の 地に 来られた と 聞いた ので, 信ずること

dulin,, kenehunjerengge dulin,, urgunjerengge dulin,, gelerengge
半ば, 疑うこと 半ば, 喜び 半ば, 恐れは

dulin,, amba gurun de acaha doro be gūnime iletuleme
半ば。大 国 に 和 好 を 思い はっきりと

weile be ulhikini seme tacibume wakalahangge ere
罪 を 悟るように と 教誨され 問責されたことは, この

ajige gurun i mujilen be hafukiyame tuwancihiyara
小 国 が 心 を 通曉させ 正す

ucuri kai,, absi jabšan, absi jabšan,, ajige gurun
機会なのです。なんと幸なことか。 何と幸なことか。 小 国は

fulahūn gūlmahūn aniya doro acaha ci ebsi juwan aniya
丁 卯 年 和好を結んで より以來 十 年

funcetele unenggi mujilen doroloro kundulere
余に到るまで、 本 心から 礼儀をつく尊崇したこと

be amba gurun sara anggala 10/11 dergi
は 大 国が 承知せらるるのみならず、 上

abka bulekušehebi kai,, damu farhūdame yaya weile
天の 鑑みるところ です。全く 暗愚にして 諸 事

be kimcihakūngge ambula,, jasei irgen i orhoda
を 子細に調べなかった事も 多かった。 辺 民 の 人蔭

butanahangge, kung, geng ni weile be ajige
採取と、 孔、 耿 の 事は、 われわれ 小

grun i da gūnin waka bicibe kenahunjerede
国 の 本 心ではない が、しかし 疑いも

acanambi,, amba gurun oncodome waliyame
もっともである。 大 国が 寛大に 見棄ておかれて

goidaha kai,, duleke aniya niyengniyeri weile be wede
久しい。 去 年 春の 事 を 誰に

anara⁴⁾,, ajige gurun i hafan irgen saha tuwaha
わずらいをかけよう。 小 国 の 官 民は 識 見が

micikiyan (micihiyan) ofi, gebu jurgan be
淺 隘 であって、 名 義 を

amdulaha gese tuwakiyame jihe elcin jili banjifi
膠ではりつけたように 墨守し、 來国の 使臣は 怒を 発して

genehe,, dahame jihe niyalma amba cooha jimbi seme
去った。 隨 來の 人が 大 軍が 来る といつて

golobure jakade,, ajige gurun i ejen amban, doigon de
おどかした ので、 小 国 の 君 臣は、 かねて

jobošome jasei amban de ulhibuhe,, arara
憂悶し 辺 臣 に 言いふくめておいた。 詞

hafan dababume gisun ambula obufi, amba gurun
臣には 誇大な 言葉が 少からず あり, 大 国

be jili banjibuhabi,, erebe ai gelgun (gelhun) 11 / 12
の 怒に 觸れた。 これを 何ぞ 敢て

akū,, bi sarkū seme geren ambasa de anambi,,
わたくしは 知らずと言ひ, 群 臣 に かこつけようか。

jihe elcin be jafambi sehe gison ere yargiyan
来た 使者を 捕えたと いう 言葉は, この事は まことに

i akū,, amba gurun genggiyen de
ありません。 大 国の 英明を 以てして

uttu kenehunjere be we gūniha,, daiming
かかる 疑 を 誰が 抱いたのでしょう。 大明

gurun, be ama jui mujangga,, amba gurun
国と われは 父と子であり, まことにその通りです。 大 国

i cooha kemuni daiming ni jase furdan be dosime
の 兵は 常に 大明 の 辺 関 に 入り

dailanambi kai,, amari⁵⁾ ajige gurun emu sirdan be
征討に行っている。 後に 小 国には 一 箭 をも

forobuhakū,, tere inu ahū deoi acaha doro be ujen
向けたことはない。これは 又 兄 弟の 和 好 を 重しと

arahangge kai,, kicembi sere gisun ai serengge,,
しているためです。害そうと謀る という言葉は何と云うことでしょうか。

tuttu seme ere inu ajige gurun i unenggi akdun be
然し ながら これ 又 小 国 が 誠 信 を

sabubuhakū turgun de,, amba gurun kenehunjehengge
現さなかった ため で, 大 国の 疑も

inu kai,, wede anara,, mafuta i henduhengge
もっともです。誰に かこつけましょう。馬福塔 の言葉では

sain gūnin i jihe sere jakade,,
善 意 で 来た という ことだったので、

ajige gurun akadafi kenehunjehekū,, uttu 12 / 13
小 国は 信じて 疑わなかった。 こう

ojoro be we gūniha,, duleke weile be ajige
なること を 誰が 思ってみたらう。 往日の 罪 を 小

gurun ulhihe,, weile bici dailara weile be alici
国は 承知しています。罪があれば 討伐し、 罪 を 認めれば

guweburengge, ere amba gurun i abka de acabume tumen
赦免するのは、 これ 大 国 が天(意)に 合わせ 萬

jaka be baktambure mujilen kai,, fulahūn gūlmahūn
物 を 包容する 心 です。 丁 卯

aniya, abka de gashūha be gūnime,, ajige gurun i
年、 天 に 誓ったこと を 思い、 小 国 の

banjiha irgen i ergen be gosici ajige gurun be ehe
生 民 の生命 を 憐まれるなら、 小 国 をして 悪

be halabufi icemleme dasabuci,, ajige gurun enenggici
を 改めさせ 自新せしめれば、 小 国は 今日から

mujilen be obome deribuki,, aika bade,, amba gurun
心 を 洗い 始めたい。 もし も、 大 国が

waliyame gamarakū urunakū, coohai hūsun be tucibuhe
有 恕せず、 必ず 兵 力 を 出した

de,, ajige gurun de uru ba akū,, hūsun mohoho,
なら、 小 国 に 理のある所もなく、 力も 窮まり、

damu bucere be aliyara dabala ainara,, fahūn i dorgi
ただ 死 を 待つ ほか 何をなそう。胆(はら)の内にある

gisumbe (gisun be) olhome tucibuhe,, jorime tacihiyara
言葉を, おそれながら 陳べた。 指 教

be 13/14 gingguleme aliyambi,, ere bithe be nañ hañ be
を 謹んで 待ちます。』 この 書 を 南 漢 を

kaha jasei duka de,, hūng gao lo,, li selang benjihe
囲んだ 辺 門 に, 洪 閣 臣, 李 侍郎が 齎して来たの

be, inggūldai, mafuta ganafi gajiha,,
を, 英俄爾岱, 馬福塔が取りに行き 持って来た。

○ ice duin de,, wang jing ni dergi orin bai dubede, hañ
初 四 日, 王 京 の 東 二十 里の 先に, 漢

giyang be amasi doofi hañ giyang ni dalin de ing iliha,,
江 を 北に 渡り 漢 江 の 岸 に 営を建てた。

○ ineku tere inenggi,, nikan ilan wang, ujen coohai jalan
同じ その 日, 漢の 三 王と, 漢 軍 甲喇

i janggin jin ioi hoo, moringga cooha be gajime isinjiha,,
章京 金 玉 和が 騎 兵 を 率い 到着した。

○ ice nadan de,, jirla doo,, gung ceng doo juwe
初 七 日, 全羅 道, 忠 清 道 二

goloi dutan sung bing guwan acafi cooha 14/15
地方の 巡撫, 總 兵 官が 合い, 兵を

gaifi solgoi (solhoi) wang ni kabuha nañ hañ i hecen de
率い, 朝鮮 王 の 囲まれた 南 漢 城 に

dame jifi ing ilihabi seme donjifi enduringge han [ini deo]
援けに 来て 営を 立てた と 聞き, 聖 汗は [彼の弟]

hošoi erke cin wang dodo,, amban jergici lakcaha [ujui]
和碩 豫 親 王 多鐸, 臣 超 品 [一等]

gung yangguri efu be cooha gaifi genefi tuwame afabu
公 楊古利 額駙 をして 兵を 率い 行き 機を見て 攻めよ

seme unggihe,, hošoi erke cin wang,, jergici lakcaha [ujui]
と 遣った。 和碩 豫 親 王と 超 品 [一等]

gung yangguri efuse hese be alifi genefi tuwaci,, abka
公 楊古利 額駙等は命 を 奉じ 往って 視れば, 天は

nimarame farhūn ofi batai cooha ing be getuken saburakū
雪降り 晦冥 し, 敵 兵の 宮 が はっきりと 見えない。

uthai cooha be sindafi afabume alin i buten i jakade
そこで 兵 を 縦って 進撃し, 山 の 麓 の 所に

faidaha cooha be gidame gamafi alin i ninggui amba ing
陣取った 兵 を 撃 破し, 山 上の 大 宮

de isibuha,, tereci erke cin wang buren burdeme cooha
に 到った。 それから 豫 親 王は ほら貝を吹き鳴らし 兵を

bargiyafi jergici lakcaha [ujui] gung be alin i ninggude 15/16
集め, 超 品 [一等] 公 を 山 の 上に

jio,, emgi tuwame coohai niyalma be afabume gidaki
来い, とともに 見守って 兵 士 を 攻 撃させよう

seme hūlara jahade,, jergici lakcaha [ujui] gung yangguri
と 招き呼んだので, 超 品 [一等] 公 楊古利

efu,, hošoi erke cin wang de acaname genere de,, solgo
額駙は, 和碩 豫 親 王 に 会いに 行く 時, 朝鮮

(solho) i burlaha cooha hadai fiyeren de ukafi bihengge
の 敗 卒で 峰の はざま に 逃げて いた者が

alime gaifi miyoociyang [mioociyang] sindara jakade, [ujui]
待ち 受け 鳥鎗を 放った ので, [一等]

gung yangguri efu goifi feye de akū oho,, ninju ninggun
公 楊古利 額駙に当り 傷によって亡く なった。六十 六

se bihe,, [daicing] gurun boo de tusa arame yaya
歳 であった。 [大清] 国 家 に 益を もたらし, 諸々の

[babai] dain de [ujulame] juleri afame,, amba gung
〔所々の〕戦 に 〔先頭に立って〕率先して 戦い, 大 功を

[ambula] ilibuha [gungge amban] bihe,, [tereci] hošoi
〔大いに〕建てて 〔功績は大きかった〕いた。〔それから〕和碩

erke cin wang cooha bargiyafi jai cimari gereke manggi
豫 親 王は 兵を 収め, 翌 朝 明るくなった後,

afaki seci solgoi (solhoi) cooha gemu morin waliyafi
攻めようとする, 朝鮮の 兵は みな 馬を 棄て

dobori burlame genefi ing de emu niyalma
夜中に 逃げ うせて 宮 には一 人

hono akū untuhun ohobi,, tereci 16/17
も いず 空になって いた。 それから

hošoi erke cin wang batai emu minggan emu tanggū
和碩 豫 親 王は 敵の 一 千 一 百

dehi morin be bargiyafi amasi bedereme da ing de jihe,,
四十頭の馬 を 捕獲し, 後へ 戻り 本 宮 に 来た。

jergici lakcaha [ujui] gung ni giran be gajime han i ing
超 品 〔一等〕公 の 亡骸 を もって 汗 の 宮

ni tule isinjiha manggi,, geren ambasa dahūn dahūn i
の 外に 着いた ので, 群 臣等が かさね がさね

tafulaci ojurakū,, enduringge han ambula songgome [ujui]
なだめたが ききいれず, 聖 汗は 働 哭し 〔一等〕

gung ni giran de acanafi arki hisalafi,, [ini] beye de
公 の 亡骸 に 会いに行き, 酒を 供え, 〔自分の〕身 に

etuhe sahalca sekei sijigiybn jibca,, sekei dahū mahala
つけた 黒 貂の 袍 皮襖, 貂の 皮端罩, 冠,

gūlha etubufi sunggome (songgome) nakarakū,, geren
靴を 着せ 泣いて 止めなかった。 群

ambasa han be jombume dahūn dahūn i tafulara jakade,,
臣等は 汗 に 進言し、 再三 再四 諫めた ので、

han teni gisun gaifi ing de bedereme jihe,, [han
汗は やっと 言葉をききいれ、 宮 に 帰って 来た。〔汗は

jing gasame juwe inenggi buda jeterakū, cai muke
ひたすら 嘆いて 二 日間 御飯を 食べず、 茶、 水を

omirakū oho manggi 17/18 geren ambasa jombume tafulahai,
飲まなかった ので 群 臣等は 進言し 諫めつづけた。

han teni cai omime buda jeme deribuhe,]
汗は やっと茶を飲み 御飯を 食べ はじめた。]

○ juwan de,, dashūwan i ergi galai cooha be gaifi,
十 日。 左 の 方 の 翼 の 兵 を 率い、

cangsan i babe dosika,, hošoi mergen cin wang, doroi
長山 の 所を 進んだ。和碩 睿 親 王、 多羅

hooge beile, sunja jergi cooha gidafi, li yuwansuwai be
豪格 貝勒は五 度 兵を 撃ち敗り、 李 元帥 を

weihun jafafi cooha gajime isinjiha,, hošoi mergen cin
生け 捕り 兵を 連れて 到着した。和碩 睿 親

wang,, doroi hooge beile,, enduringge han de wesimbuhe
王、 多羅 豪格 貝勒が、 聖 汗 に 上奏した

[alaha] gisun,, musei [daicing gurun i] cooha dosika be,,
〔報告した〕言葉。『われらの〔大清 国 の〕兵が 進入したのを、

cangsan i cangjeo hoton i cooha irgen donjifi alime
長山 の 昌州 城 の 軍 民が 聞き、 防禦し

eterakū hoton be waliyafi, alin i ninggude šancilaha be,,
得ず 城 を 棄て、 山 の 上に 寨を築いたのを、

gulu šanggiyan i bayara,, kubuhe šanggiyan i bayara,,
正 白旗 の 護軍、 鑲 白旗 の 護軍、

gulu lamun i bayara,, aliha cooha 18/19
正 藍旗 の 護軍が 防禦 兵を

afame gaiha,, añ jeo i dzung bing guwan,, hūwang jeo i
攻めて 取った。安 州 の 總 兵 官, 黃 州 の

yuwansuwai sunja tanggū cooha be gaifi ning biyan hoton
元帥が 五 百の 兵 を 率い 寧 邊 城

ci tucike be, hošoi mergen cin wang,, doroi hooge
から 出た のを, 和碩 睿 親 王, 多羅 豪格

beile i gocika bayarai teile hoton de isitala gidaha,,
貝勒 の 親 軍 だけで城 に 到るまで 撃ち敗った。』

○ an jeo i juwe tanggū cooha be ucarafi, wang ni
安 州 の二 百の 兵 に 遭遇し, 王 の

hiyasa,, beile i hiyasa i teile gidaha,, ning biyan hoton de
侍衛等, 貝勒 の 侍衛等 だけで撃ち敗った。寧 遠 城 に

li yuwansuwai, ilan dzanjiyang [sanjan], duin iogi,, tofohon
李 元帥, 三 参將, 四 遊撃, 十五

beiguwen i moringga cooha nadan tanggū,, yafahan
備禦 の 騎 兵 七 百, 步

cooha ilan tanggū be monggoi gūsai ejen suna efu, meiren
兵 三 百 を 蒙古 固山 額真 蘇納 額駙, 梅勒

i janggin utaci, imtu, toohai, dehindai,
の 章京 吳塔齊, 宜木図, 陶海, 得馨德,

arandu, anggadai, ubasi, emelci, guluhu, 19/20
阿蘭都, 昂阿代, 吳巴什, 額墨爾齊, 古魯虎,

sanggarjai se gidafi,, li yuwansuwai be weihun jafaha,,
桑噶爾寨 等が 敗り, 李 元帥 を 生け 捕った。

musei cooha susai uksin bihe,, šoowan i gašan de
われらの 兵は 五十人の甲士 であった。宣 屯村 に

isinjiha inenggi solgoi (solhoi) cooha tatafi genehe
到着した 日、 朝鮮の 兵が 宿営して 去った

kūwaran be safi helen jafafi fonjici yuwansuwai,,
営舎 を 見つけ、 捕虜を 捕え 訊問すると、 元帥、

hūwang jeo i dzumingguwen, meni wang be,, daicing
黄 州 の 總兵官は、 われらの 王 が、 大清

gurun i cooha de horibuhabi seme donjifi emu tumen
国 の 兵 に 囲まれた と 聞き、 一 萬

sunja minggan cooha gamame, meni wang de aisilame
五 千の 兵を 率い、 われらの 王 の 救援に

genefi ilaci inenggi oho seme alaha manggi,, tere
行き、 三 日 たった と 告げた ので、 その

dobori cooha simnefi, kubuhe šanggiyan, gulu lamun,
夜、 兵を 選び、 鑲 白旗、 正 藍旗、

juwe gūsai bayara aliha cooha i emu nirui
兩 旗の 護軍 驍 騎 の中、 每一牛录から

sunjata uksin,, monggoi juwe gūsai emu nirui sunjata
五名の 甲士、 蒙古 兩 旗の中、 每一牛录から 五名の

uksin be gamame emu inenggi genefi, tere 20 / 21
甲士 を 率い、 一 日 行き その

dobori dulifi, jai inenggi šun tucime amcanafi, ini
夜は 徹夜し、 翌 日 日の 出に 追いつき 彼が

dulbade uthai gidaha,, ede cooha be gaifi
気づかぬのに乗じ、 たちまち 撃ち破った。 そこで 兵 を 率い

afahangge,, kubuhe šanggiyan i meiren i janggin samsika,,
戦うとき、 鑲 白旗 の 梅勒 章京 薩穆什喀、

bayara i jalan i janggin centei, cunga,, gulu lamun i
護軍 参領 陳泰、 崇阿、 正 藍旗

aliha coohai meiren i janggin sildu,, bayarai jalan i
驍 騎 梅勒 章京 席爾都, 護軍 参

janggin olosecen,, icengge,, monggoi meiren i janggin utaci,,
領 俄羅塞臣, 宜成格, 蒙古 梅勒 章京 吳塔齊,

gulu lamun i esen heohen baturu se afaha,,
正 藍旗 額参 候痕 巴圖魯 等が戦った。

○ ineku tere inenggi [jawan de], hūng i poo, jiyang
同じ その 日 [十 日], 紅 衣 礮, 將

jiyūn poo, okto, ujen agūra tebuhe sejen be cooha
軍 礮, 火薬, 重 器を 載せた 車 を 兵が

gaifi uncehen be fiyanjilafi gajime jio [gaju] seme amala
引き, 殿後 を 防護し 持って来い と 後に

werihe,, doroi elehun beile isinjifi,, enduringge han de
残した。 多羅 安平 貝勒が到着し, 聖 汗 に

wesimbuhe [alaha] gisun,, ice ninggun de, limjin giyang
上奏した [報告した]言葉, 『初 六 日, 臨津 江

ni dogon be tuwanabuci,, 21/22 juhe gemu efujefi,
の 渡し場 に 行って見ると, 氷は ことごとく 解け,

yafahan niyalma hono doci (dooci) ojirakū seme alanaha
歩行の 者 でも 渡れ ない と 報告しに行った

manggi,, kiyoo cara erin geli waka,, ere ujen agūra be
ので, 橋を 架ける時 でも ない。 この 輜 重 を

adarama dobure (doobure) seme,, bi mujilen ambula joboho,,
どうして 渡そうか と, わたくしの心は はなはだ悩んだ。

eitereci, abkai ciha okini seme, ujen agūra be jurambufi
どのみち 天の 思うままにまかせておけと輜 重 を 出発させて

jime, dogon de cimari isinambi, sere dobori, abka gehun
来て, 渡し場 に 明日は 着こう という 夜, 天気 清

galga bihengge,, gaitai tulgulefi (tulhulefi) aga nimanggi
朗 であつたものが、たちまちかき曇り 雨と雪とが

suwaliyame agafi šahūrun ofi, sindaha juhe,, jai dasame
こもごも 降り 寒く なり、解けた 氷が また 再び

jafafi,, aniya biyai ice nadan de, limjin giyang ni dogon be
凍結し、正 月 初 七 日、臨津 江 の 渡し場 を

yafahan i niyalma dooci ojirakū sehengge,, ududu tumen
徒歩 の 者は 渡れ ないと 言ったのが、数 萬の

cooha dooci her sehekū⁶⁾ dooha sehe manggi,,
軍士が 渡河を 気に しないで 渡った』 と言つた ので

22/23 enduringge han [hese] hendume,, eiten sain de
聖 汗は 言われた。『萬事 幸運 に

ucaraburengge gemu abka kai sehe,,
出遇つた事は 皆 天意であるぞ』 と言われた。

○ juwan ilan de,, coohiyan gurun i wang lidzung,,
十 三 日、朝鮮 国 の 王 李倬が

gingguleme daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun
謹んで 大清 国 の 仁 寛 溫

enduringge hūwangdi de bithe wesimbuhe,, cananggi ajige
聖 皇帝 に 書を 奉じた。『先日 小

gurun i ambasa bithe jafafi cooha i duka de habšanafi
国 の 宰臣等が 書を 奉じ 軍 門 に 陳訴に行き、

hūwangdi amala hese wasimbure sere jakade,, ajige
皇帝は 後に 命を 下す と仰せられたので、小

gurun i ejen, amban monggo (monggon) sampi bethe
国 の 君 臣は 首を 伸ばし 足を

tukiye fi sain mejige be aliyambihe,, te juwan inenggi otolo
つま立て、良い しらせ を 待っていた。今 十 日 たつても

sain ehe mejige isinjire unde,, bi hūsun mohofi
善 悪の しらせが まだ着かない。 わたくしは 勢 窮り,

gūnin wajifi usacuka babe dasame gisurerekūci ombio,, damu
情 迫り, 暗澹とした所を再び 語らずに おられようか。ただ

23/24 fusihūn seoleki,, ajige gurun seibeni amba gurun
垂 察してほしい。小 国は 昔 大 国

i kesi de ahūn deo arame abka na de alaha,, udu ba
の 恵みにより 兄 弟と なり, 天 地 に 告した。たとえ疆

na meni meni bicibe, mujilen jūnin encu akū,, juse omosi
域が 別 別 であっても, 情 意に 別は ない。子 孫

tumen jalan de isitala wajirakū hūturi ombi seme gūniha
萬 世 に到るまで, 盡きざる 福の あれかしと 思って

bihe,, fila i senggī olgoro onggo,, bi aldasi jakanabume
いた。盤 の 血が 乾かぬ 間に, わたくしは中途に 離間させられ,

tehei hafirahūn jobolon be baifi, abkai fejergi de
いながらにして さし迫った 禍 を 得, 天 下 の

geli basucun ogoro be we gūniha,, ere gemu mini banin
又 もの笑い となるのを誰が 思ってみただろう。これは皆 わが 天性が

eheliyenggu (eheliyanggū) budun ofi geren ambasa de
愚鈍 庸懦 にして, 群 臣等 に

sartabufi kimcihakū hūlimbuha turgunde uttu oho,,
遅誤させられ, 詳察せず 惑わされた ために かような仕儀となった。

damu beye be wakalara dabala ai seme hendure,, ahūn
ただ 自分自身を 責める のみ。何 の 言葉があろう。兄は

deo i eñdebuku weile be sahade jili banjime 24/25
弟 の 過 罪 を 見た時, 怒を 発し

wakanlarangge (wakalarangge) tere giyan kai,, tuttu seme
責めること, それは理で ある。しかし ながら

wakalame dabagade (dabahade), ahūn deo jurgan de acarakū,,
責罪も 度を越えと 兄 弟の 義 に そむく。

abka de waka ojoro ayuo (ayoo) ,, ajige gurun mederi
上天 に 非を 犯すことになるのではあるまいか。小国は 海

ujan de tefi,, damu bithei canggi be weileme,, coohai
隅 に 僻在し、ただ 文事 のみ を つとめ、 兵

weile be tacihakū,, yadalinggoi (yadalinggūi) etenggi be
事 を 習わず、 弱きを以て 強き に

dahame,, ajige i amban be weilerengge tere an i kooli,,
臣となり、小 を以て大 に 事えること、 それは常 の理である。

ai gelgun (gelhun) akū amba gurun de eljembi,, damu daiming
どうして敢て 大 国 に さからおうぞ。ただ 大明

ni jirami (jiramin) kesi be jalan halame alime gaifi gebu
の 厚 恩 を 世 世 受け、 名

teisu be afinici (afini ci) toktohuha,, sahaliyan muduri aniya
分 は かねてから 定まっていた。壬 辰 年、

yamji cimari gukume hamika be,, daiming ni, šensung
夕 旦 亡びに 近づいた のを、 大明 の 神宗

hūwangdi, abka i fejergi cooha be acinggiyafi banjiha 25 / 26
皇帝は 天 下の 兵 を 動かし 生

irgen be aitubume, muke tuwa ci tucibuhe,, ajige
民 を 助け、 水 火 から 救い出した。 小

gurun i niyalma ere erin de isitala niyaman giranggi de
国 の人は 今 に 到るまで心 骨 に

hadafi ejeme gaifi,, amba gurun de eñdebuku bahatala
銘 記し 付して、 大 国 に 罪過を 得てまでも

daiming ni gurun be urgudehekūngge (urgedehekūngge) gūwa
大明 国 に 背かなかったことは 他の

turgun waka,, kesi jirami (jiramin) ofi, niyalma
理由によるのでは ない。 恩は 厚 く, 人

mujilen de acabuha šumin ofi tuttu kai,, niyalma de
心 に 感銘すること 深く して そうな った の です。 人 に

kesi isiburengge emu hacin i teile waka,,
恩を 加える とい う こ と は, こ の よ う な こ と ば か り を い う の で は ない。

aikabade irgen i ergen be ujire, gurun i jobolon be
もし 民 の 命 を 助け, 国 の 危 患 を

aitubure niyalma bihede,, cooha tucifi hafirahūn be sucibe,,
救う 人 が い た な ら, 兵 を 出 し 危 難 か ら 解 き 放 っ て も,

cooha bederefi gurun be bibucibe tere weile utu (udu)
兵 を 退 き 国 を 存 せ し め て も, そ の 事 柄 は た と え

encu seme tere kesi gemu emu kai,, duleke 26 / 27
違 っ て い て も, そ の 恩 は 皆 同 じ で す。 昨

aniya ajige gurun i yabuha weile hūlhin (hūlhi) farhūn
年, 小 国 の お こ な っ た 事 は 愚 昧 暗 愚

ofi,, amba gurun kemuni tacibuha,, bi beye i
で, 大 国 は し ば し ば 教 導 さ れ た。 わ た く し は 自 ら の

waka be ulhirakū,, amba gurun i cooha de tušafi, ejen
非 を 悟 ら ず, 大 国 の 用 兵 に 際 会 し, 君

amban, ama jui emhun hecen de horibufi ambula hafirabuhabi,
臣, 父 子 は 孤 城 に 囲 ま れ は な は だ 窮 迫 し た。

ere ucuri amba gurun dahūme eñdebuku be waliyafi
今 こ の 時 に 大 国 が 重 ね て 過 誤 を 見 の が し

icemleme dasabufi,, gurun boo be tuwakiyame, amba
自 新 改 正 さ せ, (わ が) 国 家 を 保 守 し, 大

gurun be kemuni weilebure ohode, ajige gurun i ejen
国 に 引 き 続 き 仕 え さ せ れ ば, 小 国 の 君

amban niyaman de hadafi gūnime juse omosi jalan
臣は 心 に きざみ つけ、 子 孫 世世

halame eñteHEME ongorakū abka i fejergi niyalma
代 代 永く 忘れず、 天 下の 人びとが

donjiha de amba gurun i akdun horon be
聞い て 大 国 の 信 威 を

saišarakūngge akū kai,, tuttu ohode ere fonji amba
賞賛しないものではありませんぞ。 このようにされたなら 今 回 大

gurun emgeri oci amba kesi be dergi bade isibuha,, 27/28
国が 一つ には 大 恩 を 東 土に 及ぼし、

jai oci sain gebu be duin ergi gurun de algimbi kai,,
二つ には 誉高き 名 が 四 方の 国 に 揚り ますぞ。

tuttu akū oci emu erin i jalin uthai urunakū [jiduji]
もしそう なさらず、 一 時 の 理由ですぐさま 必ず [必ず]

coohai hūsun be wacihiyame tucibume,, ahūn deo i jurgan
兵 威 を 一気に 現わし、 兄 弟 の 義

be efuleme iceleme dasara jugūn be yaksifi, geren gurun i
を 傷つけ、 自新 改正の 路 を 閉ざし、 諸 国民 の

ereme tuwara be lashalaci,, aikabade amba gurun i golmin
希 望 を 絶てば、 恐らくは 大 国 の 長

bodogon waka ayoo,, hūwangdi sure genggiyen de,,
策では あります まい。 皇帝の 睿 智 により

ere babe ainu bodome isibuhakūni,, bolori
この ことに どうして考え 及ばないことがありましょう。 秋

wara,, niyangniyeri (niyengniyeri) banjiburengge, abka na
殺し、 春 生かすことは、 天 地

i giyan,, yadalinggū be jilara,, gukure be
の 理であります。 弱き者 を いつくしみ、 亡びる者 を

gosirengge, bai doro, wang ni doro kai,, hūwangdi
憐れむのは、覇道、王 道 です。 皇帝が

teni baturu erdemunggei bodogon i geren gurun be
今 勇武 英徳の はかりごとを以て 諸 国民 を

elbime toktobume ice amba gebube 28 / 29
撫 定し 新たに 大 號 を

ilibufi,, gosin onco hūwaliyasun eñduringge sere duin hergen
建て、 仁 寛 温 聖 の 四 文字

be alime gaifi,, abka na i giyan acabume, bai doro, wang
を 受 け、 天 地 の 理を 體し、 覇道、 王

ni doro be yabuki sembikai,, ajige gurun nenehe
道 を おこなおう とするものです。小 国は 先の

eñdebuku be halafi, amba kesi be alime gaime aldasi
愆 を 改め、 大 恩 を 受 取り 中道に

waliyarakū be buyere,, tuttu ofi, wesihun horon de jailarakū
放棄しないようにしたいものです。それ故に、尊 嚴 を 畏れ避けず、

geli dahūme huturceme,, hese wasimbure be baimbi,,
又 重ねて こまごまと申し上げ、旨を 下されること を 請う。』

○ juwan ninggun de,, loosa šongkoro baturu, ubai sei
十 六 日、 勞薩 碩翁科羅 巴図魯 呉拜 等

jergi gabsihiyan cooha be yooni gurun boo be
前鋒 軍 には 全て 国家（盛京） を

tuwakiya seme werihe wang, beile de hūsun okini
守護せよと命じ、 留守の 王、 貝勒 には 力を いたすように

seme unggihe,, ese de unggihe bithei gisun,, 29 / 30
といって遣わした。 彼等に 送った 書の 言葉。

gosin⁷⁾ onco hūwaliyasun eñduringge han i hesei bithe,,
仁 寛 温 聖 汗 の 勅 書、

gurun i ejen fujin de unggihe,, duleke aniya jorhon
国 の 額真 夫人(皇后) に 送った。 『去 年 十二

(jorgon) biyai ice jakūn de juleri tucibuhe gabsihiyan
月 初 八 日, 先頭に 派遣された 前鋒

cooha eijui jen giyang be dooha,, ice uyun i cimarilame,
兵は 義州の鎮 江 を 渡った。 初 九日 の 黎明,

gabsihiyan coohai sirame tucibuhe hošoi erke cin wang,
前鋒 兵に つづいて派遣された 和碩 豫 親 王は,

emu nirui ilata uksin i cooha be gaifi dooha,,
一 牛录につき 三人づつの 甲 士 を 率い 渡った。

ineku tere inenggi erke cin wang ni sirame tucibuhe
同じ その 日, 豫 親 王 に つづいて 派遣された

doroi yoto beile emu nirui sunjata uksin i cooha be
多羅 岳託 貝勒は, 一 牛录につき 五名づつの 甲 士 を

gaifi, dooha,, juwan de, eñduringge han amba cooha be
率いて 渡った。 初十 日 聖 汗は 大 軍 を

gaifi dooha,, juleri gabsihiyan cooha jorhon (jorgon) biyai
率い 渡った。 先頭の 前鋒 兵は 十二 月

juwan duin de solgoi (solhoi) wang ni tehe wang king (ging)
十 四 日, 朝鮮の 王 の いる 王 京

31/32 hecen de isinarade,, solgoi (solhoi) wang ni juwe
城 に 着いた時, 朝鮮 王 の 二

fuiyang,, duin iogi, ninggun beiguwen siliha cooha ninju
副將, 四 遊撃, 六 備禦が 精 兵 六十

funceme gaifi okdome tucike be gemu waha,,
余人を 率い 迎撃に 出た のを ことごとく 殺した。

wang jing de isinaha manggi, sui goolo,, li selang
王 京 に 着いた 後, 崔 閣臣, 李 侍郎が

okdome jifi holtome tookabume gisurere siden de
迎えに 来て、いつわり 時間かせぎの 話をしている間 に

solgoi (solhoi) wang,, wang ni amba jui,, geren ambasa
朝鮮 王, 王 の 長 子, 群 臣等は

yooni wang jing hecen ci burlame tucifi šun dekdere
すべて 王 京 城 から 逃げ 出し、 日が昇る (東方)

julergi hošoi ergi dehi bai dubei nañ hañ sere alin i
前 方 向 四十 里の 先の 南 漢 という山

hecen de dosikabi,, sui goolo,, li selang jalidame wang
城 に 入った。 崔 閣臣, 李 侍郎は ずるがしこくも王

jing de dosifi jiderakū oho manggi,, jai inenggi
京 に 入り (そのまま出て) 来なかった ので、 次の日

musei gabsihiyan cooha solgoi (solhoi) wang ni burlame
われらの 前鋒 兵が 朝鮮 王 の 逃

genehe be teni safi dahalame baime genefi 31 / 32
走 を はじめて 知り 跡をつけて 探しに 行き、

nañ hañ i hecen de isinafi tookabume gisureme bisire de
南 漢 城 に 到り ぐずぐずと 話を している と

hošoi erke cin wang,, doroi yoto beile se siran siren
和碩 豫 親 王, 多羅 岳託 貝勒 等が つぎ つぎ

(siran) i isinafi nañ hañ i hecen be šurdeme jase jafafi
と やって来て、南 漢 城 を 繞り 柵を 立てて

kahabi,, eñduringge han isinara ongolo solgo (solho) de
囲んだ。 聖 汗が 到着する 前に、 朝鮮 に

dosika warka yecen baturu mafucan [mafuta] baturu
入った 瓦爾喀 葉辰 巴図魯, 麻福纏 [麻福塔] 巴図魯が

juwe tanggū boigon be gaifi dosime muse de jihe,,
二 百 戸 を 率いて 入り われわれ に 来帰した。

jai solgo (solho) i emu dutang emu tumen jakūn minggan
又 朝鮮 の 一 巡撫が 一 萬 八 千の

cooha be gaifi solgoi (solhoi) wang de dame jihe juwe
兵 を 率い、朝鮮 王 を 援けに 来た 二

kuren i cooha⁸⁾ gūsai beisese šoto, nikan, bohoto, loto,
隊 の 兵を 固山の 貝子等 碩託, 尼堪, 博和託, 羅託,

jalan i janggin asidarhan nakcu se gidafi gemu
甲喇 の 章京 阿什達爾漢 国舅 等が撃破り, ことごとく

waha bi,, jai emu fujiyang sunja minggan cooha gaifi
殺し た。又 一 副將が 五 千の 兵を 率い

dame jihe be ineku gūsai beisese šoto,, 32 / 33
救援に来たのを, 同じ 固山の 貝子等 碩託,

nikan, bohoto, loto, jalan i janggin asidarhan nakcu se geli
尼堪, 博和託, 羅託, 甲喇 の 章京 阿什達爾漢 国舅 等が 又

gidahabi,, meiren i janggin sele, jalan i janggin arjin se
撃破した。梅勒 章京 色勒, 甲喇 章京 阿爾津 等は

batai jidere jugūn be tosome genefi, emu fujiyang sunja
敵兵の 来 路 を さえぎりに 行き, 一 副將が 五

tanggū cooha be gaifi jidere be ucarafi geli gidaha,, nañ
百の 兵 を 率い 来たの に 遇い, 又 撃破った。南

hañ hecen de dosime jidere cooha be meiren i janggin
漢 城 に 入り 来る 兵 に 梅勒 章京

loosa šongkoro baturu, jalan i janggin ubai se ucarafi
勞薩 碩翁科羅 巴圖魯, 甲喇 章京 吳拜 等が 遇い,

meiteme gidafi juwe tanggū funceme waha,, nañ hañ
截り 撃破り, 二 百 余人を 殺した。 南 漢

hecen ci tucike duin tanggū funceme cooha be meiren i
城 から出た 四 百 余人の 兵 を 梅勒

janggin loosa šongkoro baturu gidaha,, eñduringge han
章京 勞薩 碩翁科羅 巴図魯が撃破した。 聖 汗は

amba cooha be gaifi,, jorhon (jorgon) biyai orin uyun de,,
大 軍 を 率い, 十二 月 二十 九 日,

coohiyan gurun i wang ni 33/34 horibuha, nañ hañ i
朝鮮 国 の王 の 追いこまれた 南 漢

hecen de isinaha,, fulahūn ihan aniya, aniya biyai ice ilan
城 に 到った。 丁 丑 年, 正 月 初 三

de, jirla doo goloi, sin dzung bing guwan i cooha,,
日, 全羅 道 地方の, 沈 總 兵 官 の 兵

dung ceng doo goloi, li dzung bing guwan i cooha
忠 清 道 地方の 李 總 兵 官 の 兵が

dame jihe be, doroi yoto beile gidaha,, ice nadan de,
援けに 来た のを, 多羅 岳託 貝羅が 撃破った。 初 七 日,

gung (dung) ceng doo, jirla doo ere juwe goloi dutang,,
忠 清 道, 全羅 道, この 二 道の 巡撫,

sung (dzung) bing guwan cooha gaifi dame jihe be, hošoi
總 兵 官が 兵を 率い 援けに 来た のを, 和碩

erke cin wang genefi gidaha,, cangsān i golo be dosika
豫 親 王が 行って 撃破った。長山 地方 に 進んだ

hošoi mergen cin wang, doroi hooge beile, cangsān de
和碩 睿 親 王, 多羅 豪格 貝勒が, 長山 に

isinjici, cangsān i cangju i hafan irgen gemu hecen be
到ると, 長山 の 昌州 の 官 民は 皆 城 を

waliyafi, hada de šancilaha be, alin i ningguci fusihūn
棄て, 山崖 に 寨を築いた のを, 山 の 上から 下に,

fejergici wesihun hafirame afafi gidafi gūlabume ambula
下から 上に はさみ うちにし 撃破り 崖におとし, 大いに

34 / 35 waha,, tereci ning biyan de isinjire de eijui dzung
殺した。それから寧 辺 に 到った 時, 義州 總

bing guwan,, hūwang jeo i yuwansuwai sunja tanggū
兵 官, 黃 州 の 元帥の 五 百の

cooha ning biyan ci tucike be gidafi waha,, añ jeo
兵が 寧 辺 から 出た のを 撃破り 殺した。安 州

i juwe tanggū cooha be ucarafi geli gidaha,, ning biyan
の 二 百の 兵 に 遇い 又 撃破った。寧 辺

i li fu yuwansuwai,, ilan dzanjiyang, duin iogi,, tofohon
の 李 副 元帥, 三 參將, 四 遊撃, 十五

beiguwen moringga cooha nadan tanggū,, yafahan cooha ilan
備禦が 騎 兵 七 百, 歩 兵 三

tanggū be gaifi ini wang de dame genere be, monggoi
百 を 率い, 彼の王 を 援けに 行くの に, 蒙古

gūsai egen suna efu tabcin genehe bade ucarafi
固山 額真 蘇納 額駙が, 分捕りに 行った 所で 出遇い

gidafi, li fu yuwansuwai be weihun jafaha,, šoowan i
撃破り, 李 副 元帥 を 生け 捕った。宣

gašan de isinjiha manggi,, hūwang jeo i du yuwansuwai
屯村 に 到った ら, 黃 州 の 都 元帥が

emu tumen sunja minggan cooha gaifi ini wang
一 萬 五 千の 兵を 率い, 彼の 王

de dame genere be, hošoi mergen cin wang, 35 / 36
を 援けに 来たの を, 和碩 睿 親 王,

doroi hooge beile ilaci inenggi helen bahafi dobori dulime
多羅 豪格 貝勒が三 日(前に) 諜者を 捕え, 夜を 徹して

amcame genefi holkonde dosifi gidaha,, tereci hošoi
追 跡し 不意に 突入して 撃破った。それから 和碩

mergen cin wang,, doroi hooge beile aniya biyai juwan de,
睿 親 王, 多羅 豪格 貝勒が正 月 初十 日,

eñduringge han i jakade isinjiha,, ese be (ba) ehe jugūn
聖 汗 の 所に 到着した。彼等は地面が 悪く 路が

hafirahūn ofi tuttu goidahabi,, jafaha niyalma de
狹隘 なのでこのように 遅延したのだ。捕 虜 に

jing fonjici solgoi (solhoi) wang ni kabuha hecen
ちょうど たずねると 朝鮮 王 の 囲まれた 城

i dolo jeku moo muke gemu haji sembi,, solgoi (solhoi)
中の 食糧, 薪, 水は 皆 乏しいという。朝鮮

wang ini goolo, cangšu se be, musei kaha ing de
王は 彼の 閣臣, 尚書 等 を, われわれが 囲んだ 営 に

jing tahūrame ini beye be wakalame baime, ai ocibe,
正に 遣わし, 彼 自身 を 責め咎め 請い求めて, どのような事でも

eñduringge han i hese be dahaki sembi,, muse gisun
聖 汗 の 命 に 従いたいと言った。われらは 言葉を

[hese be] burakū bi,, baha niyalma de fonjici dulga niyalma
[命 を] 与えなかった。捕えた人 に 聞くと, 一半の 者は,

solgo [solho] i wang ni emgi amba haha jui, geren
「朝鮮 王 と 一緒に 長 男, 群

36/37 ambasa gemu bi,, gūwa juse, wang ni sargan
臣等が 皆 いる。他の 子等や 王 の 妻は

gang hūwa tun de bi sembi,, dulga niyalma oci wang
江 華 島 に いる」という。一半の 者 は 「王

ni emgi ini juse sargan yooni bi sembi,, tuttu
と 一緒に 彼の 子等, 妻は 皆 いる」といっている。それ

ofi cuwan dagilafi tun be neneme gaiki,, tun i juse
なので 船を 用意し, 島 を 先に 取ろう。島 の 子

hehe be bahaci hoton i dorgi niyalma ini cisui, muse
女 を 得たなら 城 内の 人は 自 然に われら

de dahambi dere seme bodofi tun be neneme gaimbi,,
に 帰順する だろう と 判断し, 島 を 先に 取る。

tede dahara akū oci, amala hoton be afambi,, tun
あそこで 帰順し ない なら, その後で 城 を 攻めよう。 島

be tuwaci ja i gese sabumbi,, abka i gosire
を 見てみると 容易に(取れそうに)見える。 天 の 助けが

gosirakū be ainambahafi sara,, gosin onco hūwaliyasun
あるのかないのか どうして知り得よう』。 仁 寛 温

eñduringge han i hese i bithe,, hošoi ujen 37/38
聖 汗 の 勅 書。 和碩 鄭

cin wang, doroi baturu jiyūn wang, doroi bayan
親王(濟爾哈朗), 多羅 武英 郡王(阿濟格), 多羅饒餘貝勒(阿巴泰)

beile de wasimbuha,, duleke aniya jorhon (jorgon) biya i
に 降した。 『去 年 十二 月

ice jakūn de juleri tucibuhe gabsihiyan cooha eiju i
初 八 日 先頭に 派遣された 前鋒 兵は 義州 の

jeñ giyang be dooha,, ice uyun i cimarilame gabsihiyan
鎮 江 を 渡った。初 九日 の 黎明, 前鋒

cooha i sirame tucibuhe, hošoi erke cin wang emu
兵 に つづいて 派遣された 和碩 豫 親 王は 一

nirui ilata uksin i cooha be gaifi dooha,, ineku tere
牛录につき三名づつの甲 士 を 率いて 渡った。 同じ その

inenggi erke cin wang ni sirame tucibuhe doroi yoto
日, 豫 親 王 に つづいて 派遣された 多羅 岳託

beile emu nirui sunjata uksin i cooha be gaifi
貝勒は, 一 牛录につき五名づつの 甲 士 を 率いて

dooha,, juwan de eñduringge han amba cooha be gaifi
渡った。 初十 日 聖 汗は 大 軍 を 率い

dooha,, julergi gabsihiyan cooha,, jorhon (jorgon) biyai
渡った。 先頭の 前鋒 兵は 十二 月

juwan duin de solgo (solho) i wang ni tehe, wang jing
十 四 日, 朝鮮 王 の いる 王 京

hecen De⁹⁾ 38/39 isinara de, solgoi (solhoi) wang ni
城 に 着いた 時, 朝鮮 王 の

juwe fujiyang,, duin iogi, ninggun beiguwen siliha cooha
二 副將, 四 遊撃, 六 備禦が 精 兵

ninju funceme gaifi okdome tucike be gemu waha,,
六十 余人を 率い 迎撃に 出た のを ことごとく 殺した。

wang jing de isinaha manggi, sui goolo, li selang okdome
王 京 に 着いた 後, 崔 閣臣, 李 侍郎が 迎えに

jifi holtome tookabume gisurere siden de,,
来て いつわり 時間かせぎの 話をしている 間 に,

solgo (solho) i wang, wang ni amba jui, geren ambasa
朝鮮 王, 王 の 長 子, 群 臣等は

yooni wang jing hecen ci burlame tucifi šun
すべて 王 京 城 から 逃げ 出し, 日が

dekdere julergi hošoi ergi dehi bai dubei nañ hañ
昇る(東方) 前 方 向 四十 里の 先の 南 漢

sere alin i hecen de dosikabi,, sui goolo,, li selang
という 山 城 に 入った。 崔 閣臣, 李 侍郎は

jalidame wang jing de dosifi jiderakū oho manggi,,
ずるがしこくも 王 京 に 入り 出て来なかつ た ので,

jai inenggi, musai (musei) gabsihiyan cooha, solgoi (solhoi)
次の日 われらの 前鋒 兵が 朝鮮

wang ni burlame genehe be teni safi dahalame
王 の 逃 走 を はじめて 知り 跡をつけて

baime genefi nañ hañ i hecen de 39 / 40
探しに 行き, 南 漢 城 に

isinafi tookabume gisureme bisire de,, hušoi erke cin
到り ぐずぐずと 話を している と, 和碩 豫 親

wang,, doroi yoto beile se siran siran i isinafi nañ hañ
王, 多羅 岳託 貝勒 等がつぎ つぎ とやって来て, 南 漢

hecen be šurdeme jase jafafi kahabi,, enduringge han i
城 を 繞り 柵を 立てて 囲んだ。 聖 汗 が

isinara onggo,, solgo (solho) de dosika warka yecen
到着する 前に, 朝鮮 に 入った 瓦爾喀 葉辰

baturu,, mafucan baturu juwe tanggū boigon be gaifi muse
巴圖魯, 麻福纏 巴圖魯が二 百 戸 を 率いて われら

de dosime jihe,, jai solgo (solho) i emu dutan emu
に 入り 来歸した。又 朝鮮 の 一 巡撫が 一

tumen jakūn minggan cooha be gaifi, solgo (solho) i wang
萬 八 千の 兵 を 率い, 朝鮮 王

de dame jihe juwe kuren i cooha be gūsai beisese šoto,
を 援けに 来た 二 隊 の 兵 を 固山の 貝子等 碩託,

nikan, bohoto, loto, jalan i janggin asidarhan akcu (nakcu)
尼堪, 博和託, 羅託, 甲喇 の 章京 阿什達爾漢 国舅

se gidafi gemu wahabi,, jai emu fujiyang sunja
等が 撃破り, ことごとく 殺した。又 一 副將が 五

minggan cooha gaifi dame jihe be ineku gūsai 40 / 41
千の 兵を 率い 救援に 来た のを, 同じ 固山の

beisese šoto, nikan, bohoto, loto, jalan i janggin asidarhan
貝子等 碩託, 尼堪, 博和託, 羅託, 甲喇 の 章京 阿什達爾漢

nakcu se geli gidahaki,, meiren i janggin sele, jalan i
国舅 等が又 撃破した。 梅勒 章京 色勒, 甲喇

janggin arjin se, batai jidere jugun be tosome genefi,
章京 阿爾津 等は, 敵兵の 来 路 を さえぎりに 行き,

emu fujiyang sunja tanggū cooha be gaifi jidere be ucarafi
一 副將が 五 百の 兵 を 率い 来た のに 遇い,

geli gidahabi,, nañ hañ i hecen de dosime jidere cooha
又 撃破った。 南 漢 城 に 入り 来る 兵

be, meiren i janggin loosa šongkoro baturu. jalan i
に, 梅勒 章京 勞薩 碩翁科羅 巴圖魯, 甲喇

janggin obai se ucarafi meiteme gidafi juwe tanggū funceme
章京 吳拜 等が遇い, 截り 撃破り, 二 百 余人を

waha,, nañ hañ i hoton ci tucike duin tanggū funceme
殺した。 南 漢 城 から出た 四 百 余人の

cooha be meiren i janggin loosa šongkoro baturu, jalan i
兵 を 梅勒 章京 勞薩 碩翁科羅 巴圖魯, 甲喇

janggin ubai se gidaha,, eñduringge han amba cooha
章京 吳拜 等が撃破した。 聖 汗は 大 軍を

gaifi jorhon (jorgon) biya orin uyun de,, 41 / 42
率い 十二 月 二十 九 日,

solgo (solho) wang ni horibuha nañ hañ hecen de isinaha,,
朝鮮 王 の 追いこまれた 南 漢 城 に 到った。

fulahūn ihan aniya, aniya biyai ice ilan de, jirla doo
丁 丑 年, 正 月 初 三 日, 全羅 道

golo i sin dzung bing guwan i cooha,, dung ceng doo
地方 の 沈 總 兵 官 の 兵, 忠 清 道

golo i li sung bing guwan i cooha dame jihe be doroi
地方 の 李 總 兵 官 の 兵が 援けに 来た のを, 多羅

yoto beile genefi gidaha,, ice nadan de, gung ceng doo,
岳託 貝羅が 行って 撃破した。初 七 日, 忠 清 道,

jirla doo, ere juwe goloi dutan (dutang), sung bing guwan,
全羅 道, この 二 道の 巡撫, 總 兵 官が

cooha gaifi dame jihebe, hošoi erke cin wang genefi
兵を 率い 援けに 来たのを, 和碩 豫 親 王が 行って

jidaha,,
撃ち破った。

○ cangsān i golo be dosika hošoi mergen cin wang,,
長山 地方 に 進んだ 和碩 睿 親 王

doroi hooge beile cangsān de isinjici cangsān i cangjeo i
多羅 豪格 貝勒が長山 に 到ると, 長山 の 昌州 の

hafan irgen, hecen be waliyafi, hada de šancilaha be alin
官 民は, 城 を 棄て, 山崖 に 寨を築いた のを 山

i ningguci 42/43 fusihūn,, fejergici wesihun hafirame afafi
の上から 下に, 下から 上に はさみ うちにし

gidafi gūlabume ambula waha,, tereci ning biyan de isinjire
撃破り 崖におとし 大いに 殺した。それから 寧 辺 に 到った

de, aŋ jeo i sung (dzung) bing guwan, hūwang jeo
時, 安 州 の 總 兵 官, 黃 州

i yuwansuwai sunja tanggū cooha ning biyan ci tucike be
の 元帥の 五 百の 兵が 寧 辺 から 出た のを

gidafi waha,, aŋ jeo i juwe tanggū cooha be ucarafi geli
撃破り 殺した。安 州 の 二 百の 兵 に 遇い 又

gidaha,, ning biyan i li fu yuwansuwai,, ilan sanjan,, duin
撃破った。寧 辺 の 李 副 元帥, 三 参將, 四

iogi,, tofohon beiguwen moringga cooha nadan tanggū,
遊撃, 十五 備禦が 騎 兵 七 百,

yafahan cooha ilan tanggū be gaifi ini wang de dame
歩 兵 三 百 を 率い、彼の王 を 援けに

generebe monggo gūsai egen suna efu tabcin genehe bade
行くのに、蒙古 固山 額真 蘇納 額駙が、分捕りに行った 所で

ucarafi gidafi li fu yuwansuwai be weihun jafaha, šoowan
出遇い 撃破り、李 副 元帥 を 生け 捕った。 宣

i gašan de isinjiha manggi,, hūwang jeo i du yuwansuwai
屯村 に 到った ら、 黄 州 の都 元帥が

emu tumen 43/44 sunja minggan cooha gaifi ini wang de
一 萬 五 千の 兵を 率い、彼の王 を

dame genere be,, hošoi mergen cin wang, doroi hooge
援けに 来たの を、和碩 睿 親 王、 多羅 豪格

beile ilaci inenggi helen bahafi dobori dulime amcame
貝勒が 三 日(前に) 諜者を 捕え、夜を 徹して 追

genefi, holkon de dosifi gidaha,, tereci hošoi mergen cin
跡し、 不意 に 突入して 撃破った。それから 和碩 睿 親

wang, doroi hooge beile,, aniya biyai juwan de,, eńduringge
王、 多羅 豪格 貝勒が 正 月 初十 日、 聖

han i jakade cooha gajime isinjiha,, ese ba juhūn (jugūn)
汗 の所に 兵を ひきつれ 到着した。彼等は土地や路が

hafirahūn ofi tuttu goidahabi,, jafaha niyalma de jing
狹隘 なので、このように遅延したのだ。捕 虜 に ちょうど

fonjici,, solgo (solho) i wang ni kabuha hecen i dolo jeku,
たずねると、朝鮮 王 の 囲まれた 城 中の 食糧、

moo, muke gemu haji sembi,, solgo (solho) i wang ini
薪、 水は みな 乏しいという。 朝鮮 王は 彼の

góolo, cangšu se be, musei kaha ing de,, jing takūrame,
閣臣、 尚書 等 を、われわれが囲んだ宮 に 正に 遣わし、

ini beye be wakalame baime,, ai ocibe eñduringge 44 / 45
彼等自身を責め咎め 請い求めて、どのような事でも 聖

han i hese be dahaki sembi,, muse gisun [hese be]
汗の命に 従いたいと言った。われらは言葉を [命を]

burakū bi,, baha niyalma de fonjici dulga niyalma, solgoi
与えなかった。捕えた人 に 聞くと、一半の者は、 「朝鮮

(solhoi) wang ni emgi amba haha jui, geren ambasa
王 と 一緒に 長 男, 群 臣等が

gemu bi,, gūwa juse, wang ni sargan ambasai juse sargan,
皆 いる。他の 子等や王 の 妻, 臣等の 子や 妻は,

gang hūwa tun de bi sembi,, dulga niyalma oci, wang ni
江 華 島 に いる」という。一半の者 は, 「王 と

emgi ini juse sargan yooni bi sembi,, tuttu ofi,,
一緒に 彼の子等, 妻は みな いる」といっている。 それ なので,

cuwan dagilafi, tun be neneme gaiki,, tun i juse hehe be
船を 用意し, 島 を 先に 取ろう。島 の 子 女 を

bahaci,, hoton i dorgi niyalma ini cisui, muse de dahambi dere
得たなら, 城 内の 人は 自然に われら に 帰順する だろう

seme bodofi,, tun be neneme gaimbi,, tede daharakū oci,,
と 判断し, 島 を 先に 取る。 あそこで 帰順しない なら,

amala hoton be afambi,, tun be tuwaci ja i gese
その後で 城 を 攻めよう, 島 を 見てみると容易に(取れそうに)

sabumbi,, abkai gosire gosirakū be ainambahafi sara, ere 45 / 46
見える。 天の助けがあるのかないのか, どうして知り得よう。この

takūraha niyalma isiname uthai, uhereme de olhoba bime
使 者が 着いたら すぐに, すべて に 謹慎 で

mutere juwe amban,, emu jalan de emte funde bošokū,
能力のある二名の官員に, 一 甲喇 につき各一名の 驍 騎校,

niru toome emte uksin i niyalma,, niru toome moo
牛录 ごとに 各一名の 甲 士, 牛录 ごとに 木植

sacire ušara emte bai niyalma,, jakūn booi emte da,
採 取役の 各一名の白 身人, 八 家から 各一名の 首領,

sunjata mujan tucibufi aiga bira de cuwan arame unggii,,
各五名の 木匠を 出させ, 霰陽 河 で 船を 造って 送れ。

ere tucibure de bahanara be tuwame tucibu,, cuwan ararangge
この 派遣のさい, 熟練した者 を 吟味して 派遣せよ。船を 造るのに

tungkešen i arara cuwan i adali cuwan juwan¹⁰⁾, morin
佟克申 が 造った 船 の 様式の 船 十艘, 馬を

doobure solgo (solho) i cuwan i adali cuwan juwan,, uheri
渡す 朝鮮 船 様式の 船 十艘。 全部で

orin arabu,, ede hošoi erke cin wang ni booi tombulu,
二十艘を造らせよ。これに 和碩 豫 親 王 の 家人 托木布路,

jai tungkešen i emgi cuwan araha faksisa,, solgo (solho)
また 佟克申 と 共に 船を 造った 工匠等, 朝鮮

morin tebure cuwan be saha niyalma be baicafi unggii,,
馬を のせる 船 を 知っている 者 を 調べて 送れ。

cuwan 46/47 arame jihe amban aiga birai dalin de
船を 造りに 来た 官員は 霰陽 河 辺 の

akdun bade tatafi, cuwan wasimbume eiju i giyang de
堅固な 地に 宿営し, 船を 下して 義州 の 江 に

gajici ojoro bade ara,, cuwan hadara sele faksi be
運んで来ることの出来る所で造れ。船を 釘づける 鉄 職人 を

bodofi unggii,, karun sindafi saikan seremšebu,,
人数を数えて 送れ。 哨卒を 置き, よく 防守せしめよ。

ume dulbadara,, jai booci tookaci oiorakū amba
手ぬかりをするな。 又 国家にゆるがせにできない 大

baita,, hūdun mejige bifi takūraci juwe ilan tanggū
事や 緊急の 消息があつて 派遣する場合には、二 三 百

niyalma be takūra,, bai buya baita mejige oci, niyalma
人 を 遣わせ。些 細な 事務や 消息 は、 人を

takūrafi,, juwe biyai orin de, tu yan puo
遣わし、 二 月 二十 日、 通 遠 堡

de jifi bisu se,, ubaci ganaha be tuwame
に来ておれと言え。ここから(そちらに)使に行った者に 会って(のち)

ebsi jikini,, cuwan arara niyalma be ere
こちらに来るように。 船を 造る 人 を、 今

takūraha mejige isinaha i¹¹⁾ uthai jurambu,, cuwan be juwe
派遣した者の 消息が とどいたら すぐさま 出発させよ。船 を 二

biyai tofohon ci dosi wacihiyafi aliya,, buyan, suldei
月 十五日 以 内に 竣工させて 待て。 布顔, 蘇爾徳が

boode sunja indefi cuwan 47/48 arara niyalma be dalime
盛京に 五日 泊まり、 船を 造る 人 を 護り

karun jio,, ici ergi galai gabsihiyan cooha, sunja indefi
見張って 来い。右 翼 前 鋒は 五日 泊り、

gahai de teme gene,, hashū ergi galai gabsihiyan cooha
噶海 に 駐在に 行け。左 翼 前 鋒は

liyohai [liohai] juhe tuheci neihe hecen de tene,, liyohai
遼河の 氷が 解けたら開 城 に 行って駐在せよ。

[liohai] juhe tuhere unde oci, niosuwang de tene,, juhe
遼河の 氷が 解けて いな ければ、牛莊 に 往って駐在せよ。

tuheke manggi, niosuwang de tehe bayara be gamame
氷が解けた後、 牛莊 に 駐在する護軍 を ひきつれ、

neihe hecen de tene,,
開 城 に 往って駐在せよ。』

○ juwan nadan de,, daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun
十 七 日 大 清 国 の 仁 寛 温

enduringge han i hesei bithe,, coohiyan gurun i wang
聖 汗 の 勅 諭, 朝鮮 国 王

de wasimbuha,, sini bithe de henduhengge,, wakalame
に 降した。 『爾の 来書 に 言う, 「責罪も

dabahade, ahūn deo i jurgan de acarakū,, 48/49
度を越えると 兄 弟 の 義 に そむく。

abka de waka ojoro ayoo sehebi,,
上天 に 非を 犯すことになるのではあるまいか」と言っている。

bi fulahūn gūlmahūn aniya,, abka de gashūme acaha doro
わたくしは 丁 卯 年, 天 に 誓い 和 好

be ujen gūnime, sini baru juwe gurun i acaha doro
を 重大事と 思い, 爾に 向い 両 国 の 和 好

be ainu efulembi seme dahūn dahūn i henduci,, si, abka
を 何故 こわすのかと 重ね 重ね 説いたけれども, 爾は天

be herserekū (heraserakū),, irgen i joboro be gūnirakū,,
を 畏れず, 民 の 苦しみ を あわれまず,

gashūha be efuleme,, sini eherehe bithe be,, mini elcin
盟誓 を 破り, 爾の 絶盟の 書 を, わたくしの 使として

jihe amban, inggūldai se bahafi gamaha manggi, sini
来た 臣 英俄爾岱 等が 持参し得た ので, 爾の

dain oho be yargiyalame safi,, bi sini
戦をなす意志のあったことを正しく 知った。わたくしは 爾が

niyengniyeri unggihe elcin, geren hūdai niyalma, bolori
春に 送った 使者, 諸 商 人, 秋に

unggihe elcin de,, suweni gurun uttu eherehebi,, bi
送った 使者 に, 「爾等の 国は このように絶盟した。わたくしは

te suwembe dailambi, suweni wang ci fusihūn,, geren
今 爾等を 征討する。 爾等の 王 より以下, 諸

irgen de isitala gemu alana seme,, 49 / 50
民 に 到るまで ことごとく 告げよ」 と

ilatuleme (iletuleme) hendufi unggihe,, bi ere dain be
はっきり 言っ て 遣った。 わたくしはこの 戦 を

gidame somime deribuhe akū,, bi sini ehe weile be
隠 匿して 始めたのではない。 わたくしは爾が 悪 事 を

deribuhe be giyan giyan i tolome bithe arafi abka de
始めたの を 筋道をたてて 数えあげ, 書を 認め, 天 に

wesimbume habšafi, uttu amba cooha iliha,, bi sini
告げ 訴え, こうして大 軍を 興した。わたくしが 爾の

gese abka de gashūha be urgudeci (urgedeci), abka
ように 天 との 盟誓 に そむいたなら, 天

de waka ombi ayoo seme olhombi dere,, si abka
の 譴責を 受けるのではあるまいかと畏れる だろう。爾が 天

be urgudehe (urgedehe) turgunde,, abka sinde ere jobolon
に 背いた ので, 天は 爾に この 禍

be tušabuha kai,, geli sini beye be hetu niyalma obufi,
を 降した のだ。又 爾 自身 を 傍観 者 となし,

abka be ainu dabume gisurembi,, geli henduhengge,,
天 を 何故 引合に出して 辞を述べるのか。又 云う,

ajige gurun mederi ujan de tefi bithei canggi be weileme,
「小 国は 海 隅 に 在り, 文事 のみ を 事とし,

coohai weile be tacihakū sehebi,, 50 / 51
兵 事 を 習わず」 と言っている。

neneme sohon honin aniya,, suweni cooha turgun akū,,
先に 己 未 年, 爾等の 兵が 故 なく

membe dailame genehe funde (fonde) bi inu, suweni
われわれを 討ちに 行った 時, われも また, 爾等の

gurun be coohai weile be tacifi,, membe dailame
国 が 兵 事 を 学び, われわれを 討ちに

genehe,, te sini eherehengge inu coohai weile be ambula
行ったのだ(と思った)。今爾の絶盟 も亦 兵 事 を 大いに

tacifi eherehe dere seme gūniha bihe kai,, adarame
学んで 絶盟に及んだのだろう と 思って いた ぞ。 どうして

tuttu coohai weile be tacihakū biheni, te bicibe, si ehe dain
かように 兵 事 を学ばずしてあり得よう。今ですら, 爾は不善な戦

be buyere de amuran niyalma,, coohai weile be tacire
を 愛 好する 人物なのだ。兵 事 の 学習

be elere unde oci,, geli nonggime tacici acambi kai,, geli
がまだ足りない のなら, 又 増し加えて 学ぶべきだ ぞ。 又

henduhengge,, sahaliyan muduri aniya,, yamji cimari gukume
言う 「壬 辰 年, 夕 旦に 亡び

hamika be daiming ni šensung hūwangdi, abkai fejergi
かけた のを 大明 の 神宗 皇帝が 天 下の

cooha be acinggiyaci (acinggiyafi) banjiha irgen be
兵 を 動かし 生 民 を

aitubume,, muke 51 / 52 tuwaci tucibuhe sehebi,,
助け, 水 火から 救い出した」 と言った。

abkai fejergi amban kai,, abkai fejergi de ai hacin
天 下は 大 ぞ。 天 下 に どんな

i gurun akū,, sinde emu nikan gurun i cooha i teile
国があるわけではない。爾にはただ 漢の 国 の 兵 のみが

dahabidere,, abkai fejergi cooha gemu dame jihebiheo,,
従ったではないか。天下の 兵が ことごとく助けに 来たのか。

suweni nikan, solgo (solho) holo dabali, gisun bardanggi
爾等の漢と 朝鮮は 詐り、潜越、 言葉の 誇

ambaki be ainu waliyarakū,, si alin i hecen de kabufi
大 を なぜ やめない。 爾は山 城 に 囲まれ、

ergen beyede isifi geli yerteme sarkū,, tenteke untuhun
身命に（禍が）及んでも又 恥を 知らず、 そのような 空

gisun be ainu gisurembi,, geli henduhengge, emu erin i jili i
言 を 何故 言うのか。 又 言う 「一 時 の 怒を以て

uthai urunakū [jiduji] coohai hūsun be wacihiyame
即ち 必らず [必らず] 兵 力 を ことごとく

tucibume,, ahūn deo i jurgan be efuleme,, icemleme dasara
出し、 兄 弟 の 義 を 傷つけ、 自 新の

jugūn be yaksifi geren gurun i ereme tuwara be lashalaci,,
道 を 閉じ、 諸 国民 の 希 望 を 絶てば、

52/53 aikabade amba gurun i golmin bodogon waka
恐らく 大 国 にとって長 策では ない

ayo (ayoo),, hūwangdi sure genggiyen de ere babe
のではあるまいか。皇帝の 聡 明 を以てして、 この 事に

ainu bodome isibuha akūni sehebi,, si coohai hūsun
何故 思い 及ば なかったのか」と言った。爾が兵 力

be dasafi, hecen hoton be bekilefi,, ahūn deo i jurgan
を 整え、 城 郭 を 固め、 兄 弟 の 義

be efuleme ehe dain be deribuki seme, jugūn dasara,
を 壊し、 悪い 戦 を 始めよう とし、 道路を 修治し、

sejen dagilara,, coohai ahūra (agūra) be belhehengge,, mini
車を 準備し、 兵 器 を 用意したのは、 わたくしが

ming gurun be dailame genehe amala, šolode cooha dosifi
明 国 を 征討に 行った 後の 間隙に 兵を 入れ、

waki gaiki seme deribuhekū,, ujiki seme deribuheo,,
殺掠しようとして始めたのではなかったか。世話をしようとして始めたのか。

si ainci sini beye be geren irgen i ereme tuwara be
爾はことによると 自分 自身 が 諸 民 の 希 望 を

lashalahakū,, sini beye be genggiyen sure sini ere
絶つものではない。 爾 自身 が 聡 明で、 自分はこの

bodohon (bodogon) be golmin bodogon de isibuha
策 が 長 策 に なる

sembi aise kai,, 53/54 tere yala golmin bodohon
と思っているのではないか。 それは 誠に 長 策

(bodogon) mujangga,, geli henduhengge, hūwangdi
には違いなかった。 又 言う、 「皇帝は

teni baturu erdemunggei bodohon (bodogon) i geren
はじめて英 徳の 策 を以て 諸

gurun be elbime toktobume,, ice amba gebu be ilibufi
国 を 招撫 平定し、 新たに 大 號 を 建て

gosin onco hūwaliyasun eñduringge sere duin hergen
仁 寛 温 聖 との 四 字

be alime gaifi,, abka nai giyan de acabume,, ba i
を 受 容し、 天 地の 理 を 體し、 覇

doro, wang ni doro be yabuki sambikai (sembikai) sehebi,,
道、 王 道 を おこなおう とするものです」 と言った。

dorgi tulergi geren wang se, ambasa, mimbe tukiye fi duin
内 外 諸 王 等、 大臣等が わたくしを あがめて 四

hergen i amba gebu be toktobuha mujangga,, bi ba i doro,
字 の 大 號 を 定めた のである。 わたくしは覇道、

wang ni doro be yaburakū ofi, sini gurun
王 道 を おこなうものでもなく、 爾の 国

be efuleki irgen be jobobuki seme cooha jihengge
を 滅ぼそう、民 を 害そう として 戦いに 来たものでも

waka,, waka uru be ilgame jihebi,, 54/55 abka na tondo
ない。 是 非 を 弁別に 来たのだ。 天 地は 誠

sain be hūhuri obumbi,, koimali ehe de jobolon afabumbi,,
善 を 福 ならしめ、狡詐 邪悪 には 禍を 与える。

ainaha seme jurcerakū kai¹²⁾, bi inu, abka na de
断じて たがうことはないぞ。 わたくしも亦、 天 地 に

acabume dahahangge be gosime ujimbi,, ijishūn ningge be
合わせ、 服従する者 を 愛 養する。 従順な 者 を

elbime hūwaliyambumbi,, fudasihūn weilenggengge be dailambi,,
招撫し 和合させる。 逆らい 罪ある輩 を 討つ。

iselehengge be wambi,, daharakūnggebe gaimbi,, ehe facuhūn
手向かう者 を 殺す。 服従しない者を 取る。 悖 乱者

be isebumbi,, koimali holo be mohobumbi¹³⁾, si mini baru
を 懲らす。 狡 詐者 を 窮せしめる。 爾はわたしに対し

bata ojoro jakade,, bi sini gurun be dailambidere,, sini gurun,,
敵と なったので、 わたくしは爾の国 を 討伐するのだ。 爾の 国が

mini harangga ome wajiha manggi,, bi juse i gese
わたしの属下に なってしまった なら、 わたくしは子 の 如くに

tuwame gosime bilume ujire be jurcehe doro bio,, sini
みなして 慈生 撫 養 に そむく 理が あろうか。 爾の

untuhun anggai sain gisun i gisurerengge geli encu,, dorgi
くだらない 口説の 美 言 の でまかせとは また 異なり、 内

tulergici amasi julesi yabure bithe be 55/56
外 後 前に 往来した 文書 を、

mini coohai niyalmai bahangge be tuwaci, bithe tome
わたしの 兵の 者が 得たの を 見ると、 書面 ごとに、

gemu, mini cooha be aha hūhai cooha sehebi,, suweni
ことごとくわたくしの兵 を 僕 賊の 兵と 言っている。 爾等の

ejen amban daci kemuni memba (membe) aha hūha seme
君 臣は 平素 なおも われわれを 僕 賊 と

gisureme ofi tuttu dere,, holha (hūha) serengge beye be
呼んで いてこうなのだろう。 賊 というのは 身 を

somime hūhame yaburengge hūha kai,, be tere gese
隠し こっそり おこなうのが 賊 だぞ。われわれがその ような

hūha oci si ainu jafarakū,, babi sindafi bi,, honin i
賊 ならば 爾は何故 捕えぬか。 いたずらに放任している。 羊 の

beye tashai sukū serengge, ainci sini ere adali untuhun
身に 虎の 皮 というのは、恐らく 爾の この ような 空しい

anggai gūwa be fusihūlara be henduhengge kai¹⁴,, mini
口説で 他人 を いやしめるの を 言った のだ。 わが

daicing gurun i niyalma daci gisurerengge haha niyalma
大清 国 の 者の 平生 俚言に 「男 人は、

gala dacun sain,, angga jancuhūn sain¹⁵ seme
手は 敏なのが よろしい。 口は すなおなのが よろしい」 と

hendumbihe,, tuttu ofi meni gurun, beyei yabunci dabali
言っている。 そうなので、わが 国民は、自分で やれることを 越えた

gisurere be yertembi,, suweni 56/57
高言 を 恥じとする。爾等の

gurun ainci holo, ehe, koimali, jalingga, bardanggi, cokto
国民は 恐らく 虚偽, 悪, 狡詐, 奸邪 高言, 驕傲が

giranggi yali de umesi singgefi yerteme sarkū ofi tuttu
骨 肉 に すっかりしみ込み、恥を 知らなく、なり、かように

balai gisurembikai,, te bicibe,, yaya niyalma banjiki seci
でたらめを言うのだ。 今でも 諸 人にして生きたいと思えば

tucifi dahame joo,, afaki seci afa,, afara fonde abka
出て 投降して 来い。戦おう と思えば戦え。 戦いの 時に 天は

ilgame sambidere,,
弁別して 知るであろう。』

○ juwan uyun de,, coohiyan gurun i wang ni hūng golo,
十 九 日, 朝鮮 国 王 が 洪 閣臣

sui cangšu, io selang be coohai ing de baime benjihe
崔 尚書 尤 侍郎 を遣し, 兵 宮 に 請うて 送った

bithei gisun,, daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun
書の 言葉, 『大清 国 の 仁 寛 温

eṇduringge hūwangdi de bithe wesimbuhe,, 57/58 genggiyen
聖 皇帝 に 書を 奉る。 明

hesei jing hafukiyame wakalame gisurehengge,,
旨を以てまさしく 通曉させるように 問責された 言葉は,

tacibure ten de isibuha serengge ere kai,, bolori
おしえ 極み に 至った ということはこれである。 秋

akiyame gecehengge [gecerengge] be, niyengniyeri banjibuki
枯れ果て 凍りついたもの を, 春 生れさせる

sere gūnin kai¹⁶⁾, bithe be tukiyme jafafi hūlarade yerteme
との 意 である。書 を 捧 持し 奉読するとき, 恥じ

saišame beye ilire ba akū,, damu amba gurun i horon,
賞賛し, 身を 置く 所もない。ただ 大 国 の 威

erdemu goroki de isinafi, geren tulergi gurun sasa acafi
徳が 遠方 に 及び, 諸 外 藩が 共に 会し,

amba gebu be tokto buhangge, abka, niyalma gemu emu
尊 號 を 定めたことであって, 天も 人 も そろって

ici ofi kai,, amba fulin (fulingga) ice ojoro ucuri,, ajige
同じ意志なのです。景 命が 新たになった 時, 小

gurun juwan aniya otolo ahūn deo i gurun bime,
国は 十 年 に及ぶ間、兄 弟 の 国 であったのに、

elemangga tuktan yendere forgon de weile baha,, bi
かえって 初め 興隆の 時 に 罪を 得た。 わたくしは

forgošome gūnici aliyaha seme amcarakū,, te damu mujilen
ひるがえって 思うに 悔やんだ とて 及ばない。 今 ただ 心

be halafi gūnin be dasafi fe ehe be oboki,, meni gurun 58/59
を 改め 思慮 を 易え 旧 過 を 洗い、 わが 国を

gubci hese be dahafi, tulergi geren gurun i adali oki,,
挙げて 命 に 順い、 外の 諸 藩 に なら い たい。

mini hafirabuha babe gūnime icemleme dasabuci,, bithe
わたくしの窮迫 を 察し 自 新させれば、 奏書、

dorolon ai ai jaka acabume yabure an bi,,
礼儀、 諸 種 の品品は ととのえ おこなうのは常式どおりにします。

gisurefi yaburengge enenggi kai,, hoton ci tuci sehe hese,,
議して おこなうは 今日に在ります。 城 から 出よ との 命は

yargiyan i gosin elbihe gūnin ci tucikengge kai,, bi
まことに 仁 撫の 至意 から出たこと であります。わたくしが

gūnici [gūnin ci] damu dabkūrilame kahangge bederere unde,,
思うに ただ 重 囲は 未だ解か れず、

hūwangdi jing jili banjiha ucuri,, dolo bici inu bucembi,,
皇帝が 正しく怒を 発した 時、 内に いても亦 死ぬ。

tucici inu bucembi,, tuttu ofi, aldanggaci muduri tu be
出ても 亦 死ぬ。 そう なので遠くから 龍 旗 を

tuwame bucere be toktobuha bi,, gūnin inu akacuka,,
見て 死 を 決して いました。情 も亦 愁える。

julgei niyalma hecen i ningguci, abkai jui de
古 人に 城 の 上から 天 子 に

hengkilehengge bi,, hengkilere doro be 59 / 60
叩頭した者が いた。叩頭の 礼 を

waliyafi ojirakū,, hecen ci tucirakūngge coohai horon de
廃すことはできないが、城 から出ないのは 兵 威 を

olhohongge kai,, ajige gurun i gūnire buyerengge, neneme
畏れるからである。小 国 が 思い 願うことは、 先に

gisurehe songkoi,, ome wajiha,, gisun mohoho,, beye
言われた 通りに なさることに尽きている。言辞は 窮した。 身は

isehe,, mujilen be hungkereme hese dahaha,, hūwangdi, abka
怕れた。心 を 傾け 命に 従った。 皇帝よ、 天

na i gese yaya jakabe banjibuki sere mujilen de,, ajige
地 のように萬 物を 生かそう とする 心 で、 小

gurun be yoni (yooni) banjibure gosire ujire i dolo
国 を 全 活 優 養 の 中に

biburakū doro bio,, hūwangdi i erdemu,
いさせる 道理ではありませんか。 皇帝 の 徳は

abkai adali urunakū gosifi waliyame fuliyame gamambidere,,
天の 如く 必ず いくしみ 不問に 付される でしょう。

olhome yargiyan i gūnin be tucibuhe,, kesi hese be
畏れかしこみ 実 情 を 吐露した。 恩 旨 を

gingguleme aliyambi,, 60 / 61
恭 候します』。

orin de, daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun
二十 日、 大清 国 の 仁 寛 温

enduringge hūwangdi hese bithe,, coohiyan gurun i wang
聖 皇帝の 勅 書、 朝鮮 国 王

lisung de wasimbuha,, si abka be urgudeme (urgedeme)
李倧 に 降した。 『爾が天 に 背き、

gashūha be gūwaliyaka turgunde,, bi jili banjifi,
盟誓 を 変えた ために, わたくしは 怒を 発し,

simbe ainaha seme sindarakū seme,, mini beye cooha
爾を 必ず, 赦免しない と, わたくし自身 兵を

gaifi jihe bihe. si emhun hecen de kabufi,, bi,
率いて来て いた。爾は 狐 城 に 囲まれ, わたくしは

sini weile i turgun be giyan giyan i bithe arafi bure
爾の 罪 過 を 筋道 たてて 書に 書き 與えた

jakade,, si beye i ehe waka be teni safi dahūn dahūn i
ので, 爾は自身 の悪 非 を はじめて知り, 再 三

baime bithe wesimbure jakade,, bi geli onco be gūnime,,
願い求めて書を 奉った ので, わたくしは又 寛大 を おもい,

sini beye be tucifi, minde acame jio sembi,, bi,
爾 自身 を 出し わたくしに会いに来いと言っている。 わたくしは

sini ere hecen be afaci baharakū,, 61/62
爾の この 城 が 攻め 取れず,

kaci tuwakiyaci muterakū ofi, simbe tucifi acanju serengge
囲みも監視も できなく て, 爾に 出て 和睦に来いと言うのでは

waka,, sini ere hecen be afame gaici inu bahambi,,
ない。 爾の この 城 を 攻め 取ることも 亦 できる。

sini gurun i bele jeku be mamgiyame cooha morin de
爾の 国 の 米 穀 を 浪費し, 兵 馬 に

ulebume kafi elhei mohobume gaici inu ombi,, bi,
与え, 囲んでゆっくりと苦しめて 取ることも できる。 わたくしが

sini ere ajige fangkala hecen be baharakū oci,, nikan i
爾の この 矮 小な 城 を 取れない なら, 漢 の

bejing hecen be adarame necici ombi,,
北京 城 に どうして 手をつけることが できようか。

mini, simbe tucifi jio serengge,, sini beye tucifi, minde
わたくしが爾に 出て 来いというのは爾 自身が出て、 わたくしに

acame jici,, emgeri oci sini kenehunjerakū akdun
和睦に 来れば、一つ には 爾の 疑うまでもない 誠実な

gūnin be, bi sambi,, emgeri oci sini beye tucifi,
心 を わたくしが知り、一つ には 爾 自身が 出て、

minde acanjime jifi,, bi, simbe gosime sini
わたくしに 会いに 来て、 わたくしは爾を いくつしみ 爾の

gurun de kemuni ejen afafi werifi,, cooha bedereme geneci,,
国 に ひきつづき主と なして留め、 軍兵を 旋し 行けば、

mini gosin akdun be 62/63
わたくしの仁 信 を

abkai fegergi niyalma sambikai,, bi simbe jalidame
天 下の 人が 知るだろう。わたくしが爾を 好計を用いて

wasimbufi minde acanjime jhengge be waci bi,
降らせ、 わたくしに 会いに 来たの を 殺せば、 わたくしは

abkai fejergi de akdun be adarame tuwabumbi,, bi
天 下 に 信 を どのようにして示そうか。 わたくしは

abkai kesi de abkai fejergi be dahabuki sembi,, simbe
天 恩 により天 下 を 撫定したいと思っている。 爾を

jalidaci, abkai fejergi be gemu jalidame wacihiyaci
騙しても、 天 下 を ことごとく 騙せ おおせ

ombio,, tuttu oci minde we dahambi,, erebe mergen
ようか。そう なればわたくしに 誰が 従うだろうか。 これは 智者も

mentuhun i gemu bahanara ba kai,, bi sini gurun
愚者 も ことごとく理解する 所 ぞ。 わたくしは爾の国

be hūwaliyambufi,, nikan gurun de buleku obuki sembi,,
を 和合させ、 漢 国 に 鏡と したい と思う。

si kenehunjeme sini beye tucifi minde acanjirakū
爾が 疑い 爾 自身 出て わたくしに 会いに来ず

elhešeci sini gurun maname bele jeku wajime jobolon
ぐずぐずすれば、 爾の 国は 破れ、 米 穀は 枯渇し 禍は

ulhiyen i inenggidari nonggimbikai,, si irgen be jobobume
次第 に 日ごとに 増し加わるぞ。 爾は 民 を 苦しめて

emu erin emu ke goidaci ojirakū kai,, 63/64
一 時 一 刻も おくれることは できない ぞ。

bi dade doro be efuleme huwekiyebuhe ambasa be
わたくしははじめに 禮 を こわし 奮起させた 臣等 を

gemu gaifi waki seme gūniha bihe,, te sini beye tucifi
ことごとく 捕え 殺そうと 思っ て いた。 今 爾 自身が 出て

minde acanjime jici,, sini jidere onggo,, ujulafi
わたくしに会いに 来るなら、 爾が 来る 前に、 首領となって

simbe huwekiyebume doro be efulehe ilan duin ambasa be jafafi
爾を 奮起させ 礼 を こわした 三 四人の臣等 を 捕えて

benju,, bi tere be wafi ereci amasi banjire ambasa
送り来れ。わたくしは 彼等 を 殺し これより 後 生の 臣等

be isebuki,, ere uttala (utala) gurun bucehe jobohongge,
を いましめたい。これほどに 国民が 死に 苦しみ、

mini nikan be dailarabe tookabuhangge tere huwekiyebuhe
わたくしの漢 への 征討を おくれさせたのは、その 鼓舞した

ambasai turgun de kai,, tere huwekiyebuhe ambasa be
臣等の ため で ある。その 鼓舞した 臣等 を

neneme benjirakū,, sini beye, minde acame jihe manggi,,
先に 送らずに、 爾 自身、 わたくしに会いに 来た 後に

jai gaifi waci,, bi tenteke jurgan be yaburakū,,
改めて捕えて殺しても、わたくしは そのような 道 は おこなわない。

sini beye tucifi acanjirakū oci,, jai dahūme gisurehe 64 / 65
爾 自身 出て 会いに来なければ 又 改めて 話をした。

seme donjirengge akū sehe,,
とて 聞きことは ない』と 言った。

ineku tere inenggi[orin de], coohiyan gurun i wang, amban li
同じ その日 [二十 日], 朝鮮 国 王, 臣 李

dzung olhome,, daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun
倭が 恐懼し, 大清 国 の 仁 寛 温

enduringge hūwangdi i tangkan i fejile bithe wesimbuhe,,
聖 皇帝 陛 下に 書を 奉った。

amban bi, abka de weile bahafi emhun hecen de horibufi,, yamji
『臣は, 天 に 罪を 獲て 孤 城 に 追いこまれ, 夕

cimari bucembi seme toktohuha bihe,, mini neneme araha
朝 死ぬ と 決めて いた。わたくしの先に 犯した

weile be narhūšame gūnici adarame jolici ombi,, udu
罪 を つぶさに 思えば どうして 贖い 得ようか。たとえ

beye gūnin hafirabufi dahūn dahūn i bithe wesimbume
私 情に 迫られ 再三 再四 書を 奉り

beye dasaki seme baicibe,, abkai jili banjiha ucuri,
身を 修めようと 請うても, 天の 怒を 得た 時だから,

yargiyan i gisun be gaimbi seme gūnihakū bihe,, 65 / 66
本当 に言葉 を 賜わろう とは 思っていな かった。

kesi hesei nenehe endebuku be wehiyeme (wacihiyame) guwe-
恩 旨を奉じ, 前 愆 を 輔け (ことごとく) 赦免

buhengge,, bolori akiyame gecerengge nakafi niyengniyeri
せられたこと, 秋の 氷凍 降霜が やみ, 陽春の

banjibure be neihe gese¹⁷⁾, dergi ergi ududu minggan bai
生成 が 開いた ようだ。東 方 数 千 里の

banjiha irgen be muke tuwaci tucibuhe kai,, emu hecen i
生 民 を 水 火より 脱せしめたものです。一 城 の

ergen i teile waka,, ejen amban ama jui kesi be gūnime
生命 のみ ならず, 君 臣 父 子は 恩 を 思い

yasai muke tuhebuma baili isibure be ulhirakū ohobi,,
感 涙に むせび 恩に 報いる所を 知らな かった。

neneme hecen ci tuci sehe hese de,, bi ambula kenehun-
前に 城 から出よと仰せられた命に, わたくしは大いに 疑

jeme geleme ofi, abkai jili bederere unde seme gūniha
懼 し, 天 怒の まだ収ま らぬ のにと, 思った

babe olhome wacihiyame gisurehekū,, te unenggi mujilen be
ことを畏れて ことごとくは 陳述しなかった。今ほんとうの心 を

tucibume dahūn dahūn i yargūdame (yarhudame) hese wa-
開示し, 重ね 重ね 善導の 諭旨を 下

simbuhangge,, julgei niyalma i fulgiyan mujilen be [niyalma i]
されたことは, 古 人 が「赤 心 を〔人の〕

hefeli dolo sindaha 66/67

腹 中に 置く」

sehangge ere gesengge be kai,, amban bi amba gurun be
と言ったのは, このようなことを言うのだ。臣は 大 国 に

weileme juwan aniya funcetele hūwangdi akadun jurgan be
仕え 十 有余年 以来, 皇帝の 信 義 を

safi goidaha,, seibeni hono gisun yabun acanahakūngge akū
知って久しい。往時ですら 言 行が 符合しないことは なか

bade, te hūwangdi hese duin erin i adali akdun akū doro
ったのに, 今 皇帝の 命は 四 時 の如く 信の ない 道理

bio,, amban bi erei jalin de joborakū oho,, jai minde
があろうか。臣は この ため に 苦慮 しない。 またわたくしに

emu hafirabufi ališara ba bi,, hūwangdi be tucibureo
ひとつのさしせまって憂悶することがある。皇帝 に 申し出さしていた

seme baimbi,, meni dergi ergi niyalma i demun hafirahūn
だくよう請い願う。わが東 方 の 人 の 風俗は 狭

hakcin¹⁸⁾ ofi dorolorongge dalhi bime micihiyan,, ejen i
迫 であり、礼節は 煩瑣 で 浅い。 君主 の

aššara nakarangge majige an ci encu oho de uthai fergu-
挙 動が 少しでも平生と 異 なる と すぐさま あや

weme fudasihūn weile de obumbi,, aikabade demun be
しみ 間違った 事 に なる。 もしも 風俗 に

dahame dasarakū ohode,, dubentele gurun be ilibuci ojirakū,,
従い 治めなければ、 おわりまで 国 を立てることはできない。

67/68 fulahūn gūlmahūn aniya ci ebsi, mini gurun i
丁 卯 年 より以来、 わが 国 の

ambasa gisun emu adali akū,, tuttu ocibe, bi damu
臣等の 言は 一 様ではない。しかしながら、 わたくしはただ

kirifi olhome gaitai becehekūngge ere i jalin de joboho
耐え忍び畏れ、にわかに 問責しなかったのはこの 理由 を 考慮した

kai,, enenggi hecen gubci tanggū hafasa saisa irgen i
からである。今日 城の 全 百 官、 士 庶 の

niyalma weile i hafirahūn oho be safi,, dahambi sere hebe
者は 事 の さし迫っ たことを 知り、降伏する との 議

be gemu emu adali gisurembi,, damu hecen ci tuci sere
を 皆 一 様に 語っている。ただ 城 から出よ との

weile be,, solgo (solho) gurun de daci ere gese weile akū
事 は、朝鮮 国 に 従来 このような事はなかった

seme urunakū bucere be toktobufi, mini tucire be
と 必 死 を 期し、 わたくしが 出ること を

cihakū,, aikabade amba gurun hafirame nakarakū oci
欲しない。もしも 大 国が 強いて督促し やめなけれ ば

amaga inenggi damu muhaliyame bucehe giran,, untuhun
後 日 ただ 積みあげられた 死 屍, 空

hecen i teile bahambikai,, te hecen i dorgi niyalma 68/69
城 ばかりを 手に入れるだろう。今 城 内の 者は

gemu yamji cimari bucere be sambime uttu gisurere
皆 夕 旦に 死ぬ と 知りながらかように 言っている

bade guwa be ai hendure,, julgeci ebsi gurun gukure
のに, その他の者 は 言を待たない。古より 以来 国家 滅亡の

jobolon,, batai cooha teile de akū,, hūwangadi kesi
禍は, 敵 兵 のみによるのでは ない。皇帝の 恩

erdemui mimbe geli udu ejen obcibe,, enenggi niyalmai
徳により わたくしを また たとえ君主となしても, 今日 人びとの

arbun be tuwaci, mimbe hukšefi ejen oburengge akū,,
さま を 見れば わたくしを戴いて 君と なす者は ない。

amban bi ere jalin de ambula gelembi,, hūwangdi daha
臣は この 為 に 大いに 懼れている。皇帝が 降れ

seme hese wasimbuhangge, ajige gurun i mafari doro be
との 命を 下されたのは, 小 国 の 宗 社 を

yoni (yooni) bibuki sehengge kai,, ere emu weile be gurun
保 全させようとの謂で ある。この 一 事 を 国

i niyalma ojirakū, gurun be gukubuki serengge, hūwangdi
人は 肯わない。国 を 亡ぼそうと 言うのは, 皇帝の

gosire jilara da mujilen de encu oho,, tere anggala, hūwangdi
憐れみ いつくしむ 本心 とは異なっている。それどころか 皇帝は

akjan i adali 69/70
雷 の ような

cooha be gaifi minggan bai dubede šumin dosifi juwe biya
軍兵 を 率い 千 里の 果てに 深 入し 兩 月

ojoro onggoro, gurun i ejen be amban obure irgen be daha-
になる 前に, 国 の 君 を 臣 となし 民 を 従わ

burengge ere, abkai fejergi ferguwecuke [fergecuke] gung,
せられた。これは天 下の 奇 功,

nenehe jalan de akūngge kai,, urunakū amban be hecen
前 代 に 未曾有の事 である。必ずしも 臣 が 城

ci tucikede teni hecen be mutehe sembio,, hūwangdi horon
から出たので はじめてこの城に 克った と言えますか。皇帝の 威

erdemu efujerakū,, ajige gurun i taksire gukurengge ede
徳を 損うものではない。小 国 の 存 亡は これに

holbobuhabikai,, tere anggala amba gurun ere hecen be afa-
かかわれています。いわんや 大 国は この 城 を 攻

rakūngge muterakū jalinde waka¹⁹⁾,, hoton be afarangge
めないことができない わけではない。 城 を 攻めるのは

weilei jalin de kai,, te amban ofi dahaci tetendere, hecen
罪ある ため で ある。今 臣 となって降った からには, 城

be ainambi,, 70/71
が 何になります。

hūwangdi sure mergen, abkai genggiyen ci tucifi tumen
皇帝の 睿 智は 天 明 より出て 萬

jaka be bulekušeme,, ajige gurun unenggi mujilen yargiyan
物 を 照し, 小 国の 眞 情 実

arbun be urunakū wacihiyame saha,, acaha doro be
情 を 必らず ことごとく 洞察された。和 議 を

ehecuhe geren ambasai weile serengge,, ajige gurun i kooli
誹謗した 諸 官員等の 罪と いうのは, 小 国 の 例では

gisurere hafan bi,, ini afaha weile be dahame seibeni gisure-
台諫の 官が ある。彼が担当した職務 に 従い 以前に 論じた

hengge yargiyan i fudasihūn ajige gurun i irgen be uttu
ことは まことに 不条理で、 小 国 の 民 にかような

jobolon obuhangge gemu tesei weile,, tuttu ofi duleke
禍を 蒙らせたことは皆 あの者らの罪であります。それ故に 昨

aniya bolori weile be sertabume (sartabume) gisurehe niyalma
年 秋, 事 を 誤らせる 論議をなした者共

be ilgafi gemu wasimbuha,, te, hūwangdi hese be ai
を 選別し、皆 貶謫しました。今 皇帝の 命 にどうして

gelgun (gelhun) akū jurcemi,, damu ere jergi urse saha
敢て 違背しましょう。ただ これらの 輩の 見

tuwaha be farhūn micihiyan ofi 71 / 72
識 は 暗愚 淺薄 であって、

abka i fulin bisire be sarkū,, kemuni fe an be tuwakiyame
天 命の ある を 知らず、絶えず 旧 常 を 固守して

tuttu ohobi kai,, te hūwangdi ejen amban i amba jurgan
こう なった のです。今 皇帝は 君 臣 の 大 義

be emu jalan de yendebuki seme huwekiyebume yabure de
を 一 世 に 興起させようと 鼓舞して おられるのだから、

ere jergi niyalma be inu gosime guwebuci acara adali,,
これ等の 輩 をもまたいつくしみゆるしていただいたらどうでしょう。

hūwangdi i onco, abka i adali, gurun i ejen i weile be
皇帝 の 大度は 天 の 如く、 国 君 の 罪 を

waliyame gamaci cihe use i gese buya ambasa
見のがすのなら、 虱 蟻 の ような 小 臣等

be, ajige gurun i fafun de afabuha de onco amban
を、 小 国 の 刑政 に 委ねられた とき、寛 大の

erdemu be ele sabubuha kai,, tuttu mentuhun i gūniha
徳 は ますます現れますぞ。 この故に愚 見

be wesimbuhe,, hūwangdi seolere be aliyambi,, hūwangdi
を 陳上しました。皇帝の 考慮 を 待ちます。皇帝が

horon be bederebufi akdun be tucibure jakade,, bi 72 / 73
威怒 を おさめ, 信 を 示された ので, わたくしは

unenggi mujilen i gūniha babe wacihiyame gisurehe,, dahūn
衷 心 より思った 所を ことごとく 語りました。かさね

dahūn i ališabuha, weile be yargiyan i guweci ojirakū,,
がさね わずらわした罪 を まことに まぬかれることはできません。

olhome bucere be sarkū wesimbuhe [donjibuha] ,,
謹んで 死 を 知らず 上奏しました [以聞しました]』。

orin juwe de,, gang hūwa tun be gaime genehe, hošoi
二十 二 日, 江 華 島 を 取りに 行った 和碩

mergen cin wang ni takūraha, medeci, namin, daincu, daintai,
睿 親 王 が 遣わした medeci, 納敏, 代音楚, daintai,

hinggene isinjiha,, ere i alanjiha gisun,, musei cooha isinaci,
興格内が 到着した。彼等 が 来報した 言葉。『わが 兵が 着くと,

solgo (solho) i cooha dehi funcere cuwan dogon de okdoko
朝鮮 の 兵は 四十 余隻の 船で 渡船場 に 邀撃

bihe,, musei hūng i poo, jiyangjiyun poo sindara
した。われわれが 紅 衣 礮, 將軍 礮を 放った

de alime eterakū wesihun wasihūn fakcame burlaha,,
ので 支え きれず 東 西に ちりぢりに 逃げた。

musei cooha gamaha cuwan de tefi afame [ilifi
わが 兵は 運んで行った 船 に 乗り 進攻し [立ち

šurume], gang hūwa tun de šun tucime dosifi,, neneme
漕いで], 江 華 島 に, 日の 出に 入り, 先に

tanggū 73 / 74

百

niyalma miyoociyang [miocang] jafafi okdoko be gidafi
人の 鳥鎗手を もって 迎えたの を 討ち

waha,, jai buksiha minggan funcere cooha be geli gidafi
殺した。また 伏していた 千 余の 兵 を 又 撃ち

waha,,
殺した』

orin ilan de,, tulergi goloi korcin i monggo, jarut, aohan,
二十 三 日, 外 藩の 科爾沁 蒙古, 扎魯特, 敖漢,

naiman i monggo be warka i šan jing golo be tucifi
奈曼 蒙古 を 瓦爾喀 咸 鏡 道 に 出兵

gene some unggihe,, erebe beneme monggo i jurgan i
せよ とて 遣した。 彼等を 送りとどけに 蒙古 衙門 の

aliha amban nikan,, šan jing golo be sara, jalan i janggin
承 政 尼堪, 咸 鏡 道 を 知っている甲喇 章京

gisha,, nirui janggin yekšu,, emu gūsai juwanta uksin be
季思哈 牛录 章京 葉克書が一 旗より 十名づつの 甲士 を

gaifi genehe,,
率いて 行った。

ineku tere inenggi [orin ilan de],, hošoi mergen cin wang
同じ その 日 二十 三 日], 和碩 睿 親 王

ni, gang hūwa tun ci takūraha,, takūrsi, 74 / 75
が, 江 華 島 から 遣わした 承差,

facuhūn, biyanggū, mucengge, šanduka, hoton be šurdeme
法楚渾, 必楊古, 穆成格, 善都喀が 城 の まわりを

kahabi seme alanjiha,,
囲んだ と 來奏した。

ineku tere inenggi,, gang hūwa tun ci, hošoi mergen cin
同じ その 日, 江 華 島 から和碩 睿 親

wang ni takūraha, bulai, yaburan [ilan ging ni dubede] isin-
王 の 遣した 布頼, 雅布蘭が〔三 更 の 終に 〕到

jiha,, esei alanjiha gisun,, gang hūwa tun i hoton be dah-
着した。彼等が来奏した 言葉, 『江 華 島 の城 を 降した。

abuha,, dahabuha hoton de,, solgo (solho) i wang ni emu
降 城 において, 朝鮮 王 の 一

sargan, juwe haha jui, emu góolo, emu selang be baha,,
妃, 二 王 子, 一 閣臣, 一 侍郎 を獲ました。

jai amala solgo (solho) i wang ni booi ai ai jaka be,,
また後で 朝鮮 王 家の 種々の 財物 と,

geren ambasai sargan juse boigon be baicafi alanjimbi
群 臣等の 妻 子 家口 を 調査して 来奏します』

sehe,,
と述べた。

orin duin de,, daicing gurun i gosin onco hūwaliyasun en-
二十 四 日, 大清 国 の仁 寛 温 聖

duringge 75 / 76

han i hese i bithe,, coohiyan gurun i wang de wasimbu-
汗 の 諭 書を, 朝鮮 国 王 に 降した。

ha,, bi cooha dosire fonde, amban mafuta se be
『わたくしは兵を 進めた 時に, 大臣 馬福塔 等 を

juleri genefi, wang ni baru gisure, wang weile be alime,
先 発せしめ, 王 に 向い 言え, 「王が 罪 を 承引し,

beye be wakalame hecen de tehei juse ambasa be okdome
自身 を 責して 城 に居ながら, 世子 群臣 をして迎え

hengkileme unggici weile wajiha,, amba cooha šumileme
叩頭に 遣るなら 事は それまで。大 軍は 深

dosirakū sehe bihe,, si hese be daharukū burlame tucifi,
入しない」と言ってあった。爾は命 に 従わず 逃げ 出し、

nañ hañ hecen de dosika,, si ere ubabe emgeri ufaraha,, jai
南 漢 城 に 入った。爾はこの ことで 一度 失敗した。又

ere biyai juwan ninggun de,, amban inggūldai, mafuta se
本 月 十 六 日, 大臣 英俄爾岱, 馬福塔 等

be takūrame, coohiyan i wang de alana,, si beye wasime
を 遣わし, 朝鮮 王 に 告げよ, 「爾 自身 降って

jici wajiha,, jiderakūci
来れば それまで, 来なければ。

註

- 1) **sini mujilen farhūn bime amba kai.** 『旧清語』第6に

ere mujilen farhūn serengge uthai farhūn baturu sere gisun inu fe
この 心 昏く というのは, 即ち 愚昧 勇驕 という語 である。古
gisun de farhūn baturu be mujilen farhūn seme inu gisurembi と見え
語 で, 愚昧 勇驕 を 心が 昏い と また 言う
る。

- 2) De. d は語頭形で記すべきところ, ここでは語中形で記してある。

- 3) 『旧清語』第6に **ama jui araha, jui de jobolon isici, ama dalirakū doro bio.**

ere duibulere gisun, emgeri unggā asigan takame yabuha kai, ishunde
これ 譬える 語 ひとたび 先輩 幼者と 認めて 行った ぞ。 互いに
haršame aituci acambi sere gūnin, tuttu fe gisun de, ama jui araha,
庇い 助くべきである という意。 かように 古 語 で 父 子 となった。
jui de jobolon isici ama dalirakū doro bio seme gisurembi, とある。
子 に 苦しみ 及べば父が 護らない 道理があろうか と 言う

- 4) **anambi.** 他人にかこつけて責任を転嫁することをいう。

- 5) **amari.** 『旧清語』第14に **musei cooha genefi jihe amari.**

ere amari serengge, uthai amala sere gisun de adali, juleri sere gisun
 この ———— という、すなわち後 という 語 に 同じ。前 という 語
 de emu mudan, fe gisun de, musei cooha genefi jihe amari seme
 に 同一の 調子。古 語 にて、我等の 兵 行きて 来た 後 と
 gisurembi,, とある。
 言う。

- 6) **her sehekū.** her har serakū (気にしないで、意に介しないで) の意であろう。
- 7) gosin onco hūwaliasun ehnduringge han 以下、原本 37 頁末尾の gosirakū be ainambahafi sara までと、それに引きつづく gosin onco hūwaliasun ehnduringge han 以下、原本 45 頁末尾 gosirakū be ainambahafi sara までとはほぼ重複している。前者は皇后に送った書、後者は和碩鄭親王等に送った書である。
- 8) 朝鮮の 1 巡撫が 1 萬 8 千の兵を率い、二隊にわかれ、朝鮮王の救援に来たとの意である。
- 9) De. d が語中形で記してある。
- 10) 佟克申が造った船の様式にならって造った船という意であろう。
- 11) **isinaha i uthai.** isinahai uthai (とどいたらすぐに) の意であろう。
- 12) 『旧清語』巻 7 に **sain de hūhuri isibure, ehe de jobolon isiburengge, ainaha seme jurcerakū.**

ere karulame acabure gisun, ainaha seme jurcerakū serengge, uthai abkai
 これは報い 合わす 言。断じて 違わない というのは、即ち 天の
 giyan de ainaha seme oncodome guweburakū sere gūnin, tuttu fe
 理 において 断じて 宥し 免れさせない という意、かように 古
 gisun de, sain de hūhuri isibure, ehe de jobolon isiburengge, ainaha seme
 語 で、善 には福を 致らし、悪 には禍を 致らすこと、断じて
 jurcerakū seme gisurembi とある。
 違わない と 言う

- 13) 『旧清語』巻 7 に、**fudasi facuhūn be isebume, koimali holo be mohobumbi.**

ere fudaraka be dailame, koimali argangga be cihai oburakū be jorime
 これ 背逆したものを 討ち、 狡滑 謀略あるものを意のままにさせないことを指して
 gisurehengge, tuttu fe gisun de fudasi facuhūn be isebume, koimali holo
 言ったもの、かように古 語 にて、背逆 暴乱 を 懲し、 狡滑 詐偽
 be mohobumbi seme gisurembi,, と記される。
 を 窮せしめる と 言う。

- 14) 『旧清語』巻 7 に **honin i beye tashai sukū sehengge, sini ere adali untuhun anggai niyalma be fusihūlara be henduhebikai,**

ere duibulere gisun, honin i beye tashai sukū serengge, yargiyan akū
 これは譬える 語、 羊 の身 虎の 皮 というのは、実の ない

be jorime gisurehengge, tuttu fe gisun de, honin i beye tasha sukū
 のを指して 言ったもの、 かように古 語 にて、羊 の 身 虎の 皮
 sehengge, sini ere adali untuhun anggai niyalma be fusikūlara be hen-
 といったのは、爾のかくの如き 空しい 口説で 人 を 賤しめるを言ったのだ
 duhebikal seme gisurembi,, と記される。
 と 言う。

- 15) 『旧清語』 卷 7 に **yaya niyalma, yabun dacun sain, gisun gocishūn sain.**

ere yabun gisun i giyan i ilinara babe jorime gisurehengge, yabun
 これは行 言 の 当然 立足すべき所を 指して 言ったもの、 行いが
 dacun serengge, tob sere gūnin i yabukini, gisun gocishūn serengge,
 敏な というのは、公正 という意 で 行くように、言が 遜な というのは、
 gocishūn arame gisurehini sere gūnin, tuttu fe gisun de, yaya niyalma,
 謙遜 に 話すように という意、 かように古 語 にて、 およそ 人は、
 yabun dacun sain, gisun gocishūn saln seme gisurembi,, と記される。
 行い 敏なるがよい、言は 遜なるが よろしいと 言う。

- 16) 『旧清語』 卷 7 に **bolori gecen i gelecuke dorgide, niyengniyeri banjibure gūnin bi,**

ere duibulere gisun, bolori gecen i gelecuke dorgide serengge, tuwara de
 これは譬えの 語、 秋の 霜 の 恐るべき 中に というのは、 見る に
 cira gelecuke bicibe, wembume hūwašabure sukdun tere dorgide baktakabi
 色 恐ろしく あっても、 融かし 育て上げる 気、 それが中に 含まれている
 sere gūnin, tuttu fe gisun de, bolori gecen i gelecuke dorgide, niyengni-
 という意、 かように古 語 にて、秋の 霜 の 恐るべき 中に、 春を
 yeri banjibure gūnin bi seme gisurembi,, と記される。
 生れさせる 意が あると 言う。

- 17) 『旧清語』 卷 7 に **bolori akiyame gecerengge be nakafi, niyengniyeri banjibure hūwašabure be selgiyehengge.**

ere bolori akiyame gecerengge be nakafi sere gisun, eiten hacin ten de
 この 秋 底まで 凍ること を 止めて という語、 一切の 件 極 に
 isinaha manggi, urunakū amasi bederebumbi sere gisun inu, duibuleci
 至った ら、 必ず 戻し 返す という語 である。譬えば
 cak seme hafutala gecehe dorgide niyengniyeri hūwašabure banjibure doro
 烈々と 染み通るまで凍った 中に 春 育て上げ 生れさせる 道
 sirabumbi sere gūnin, tuttu fe gisun de, bolori akiyame gecerengge be
 継がせる との 意、 かように古 語 にて、 秋 底まで 凍ること を
 nakafi, niyengniyeri banjibure hūwašabure be selgiyehengge seme gisurem-
 止めて、 春 生れさせ 育て上げるの を 布くこと と 言う。
 bi,, と記される。

- 18) demun は風変わりな行為や風俗を言う。hacın については『旧清語』 卷 7 に **an kooli hacin cinggiya, doro kemun buya albatu.**

ere hakcin cinggiya serengge, uthai haksan cinggiya sere gisun inu,
 この 迫 隘 というのは、即ち 險 隘 という 語 である、
 tuttu fe gisun de, an kooli hakcin cinggiya, doro kemun buya albatu
 かように古 語 にて、風 俗 迫 隘、 礼 節 卑 野
 seme gisurembi, と記される。
 と 言う。

- 19) afarakūngge muterakū jalinde waka. 二重否定を強調するあまり、三重否定になっている。